家庭科保育学習

中学生と乳幼児のふれ合い体験事例集

はじめに

中学校では、技術・家庭(家庭分野)の保育学習の一環として、中学生が乳幼児と直接かかわる体験型の学習「ふれ合い体験（ふれ合い体験学習）」が行われています。本冊子『家庭科保育学習　中学生と乳幼児のふれ合い体験事例集』は、家庭科の先生方の「どのような形でふれ合い体験が実施できるのかを知りたい」「ふれ合い体験を実施する際に、乳幼児側の受け入れ機関等に対して具体的な活動の提案が出来るような資料がほしい」という声や、ふれ合い体験を園で受け入れている保育現場の先生方の「園に来てくれる中学生たちにどのような活動を提供したら良いのか、参考になるものがあるとよい」という声からうまれたものです。

冊子の制作にあたっては、多くの中学校の家庭科の先生方をはじめ、ふれ合い体験にかかわる保育所や幼稚園、認定こども園の教職員の皆さま、行政やサポート団体の皆さま、大学の先生方に貴重な資料をご提供いただきました。また、本冊子にはふれ合い体験に関する授業づくりに役立つ資料として、絵本の読み聞かせに関する内容や、ふれ合い体験で中学生と子どもたちが一緒に活動できる遊びの例を収録しました。作成の主旨にご賛同いただき情報をご提供くださった皆様に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

本冊子で紹介されているふれ合い体験の実践は、活動場所や人数、活動時間について、さまざまなタイプのものを取り上げました。中学校の学習指導要領では、ふれ合い体験に関して乳児についての記載はありませんが、本冊子では学校現場の実態として乳児とのふれ合い体験も多く行われていることから、乳児も含めたふれ合い体験を取り上げています。学校や地域の状況に応じて、いろいろな形でふれ合い体験ができることを知っていただき、保育学習の授業づくりに役立てていただけますと幸いです。

(本冊子は、JSPS 科研費 JP17J08852 の助成を受けて作成したものです。)

東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科
日本学術振興会特別研究員DC
叶内　茜

目　次

ふれ合い体験の効果 ・・・ 3
ふれ合い体験にかかわる事務手続きの流れ ・・・ 5
ふれ合い体験の実施までのプロセスとアフターケア ・・・ 6
ふれ合い体験先への依頼状の例 ・・・ 8
安全で充実したふれ合い体験にむけて ・・・ 9
事前打ち合わせでの確認事項 ・・・ 10
【事前学習】ふれ合い体験前の授業づくりのポイント ・・・ 11
【事後学習】ふれ合い体験のふり返り ・・・ 13
さまざまなふれ合い体験の形 ・・・ 15
ふれ合い体験のパターン(型)による特徴・事例紹介 ・・・ 16

ふれ合い体験の事例紹介
事例 1 「食育レッスン」「一緒にお弁当を食べる」活動を取り入れた幼稚園でのふれ合い体験 ・・・ 17
事例 2 「一緒に体操をする」活動を取り入れた幼稚園でのふれ合い体験 ・・・ 19
事例 3 「中学生と乳幼児親子の手遊び・踊り」を取り入れた地域の世代間交流拠点でのふれ合い体験 ・・・ 21
事例 4 「幼児親子とのスイートポテトづくり」を取り入れた地域の交流センターでのふれ合い体験 ・・・ 23
事例 5 「絵本の読み聞かせ」「グループでの遊び」活動を取り入れた中学校でのふれ合い体験 ・・・ 25
事例 6 中学生が作ったおもちゃで遊ぶ「縁日ごっこ」を取り入れた中学校でのふれ合い体験 ・・・ 27
事例 7 「学校探検(クイズ・スタンプラリー)」を取り入れた中学校でのふれ合い体験 ・・・ 29
事例 8 「サポート団体による事前・事後学習」「中学生が製作したおもちゃで遊ぶ活動」を取り入れた中学校でのふれ合い体験 ・・・ 31
事例 9 乳幼児親子との交流に「コミュニケーションカード」を活用した中学校でのふれ合い体験 ・・・ 33
事例10 複数回のふれ合い体験を取り入れた保育学習①－ペアを組んだ幼児との年間を通したふれ合い体験－ ・・・ 35
事例11 複数回のふれ合い体験を取り入れた保育学習②－同じ保育園での2度のふれ合い体験－ ・・・ 37

ふれ合い体験の授業づくりに役立つ！　資料編
ふれ合い体験で中学生と子どもが一緒に遊べる活動のアイディア紹介 ・・・ 39
絵本の読み聞かせについて ・・・ 43
ブックスタート(Bookstart)とは？ ・・・ 45
年齢別の読み聞かせにおすすめの絵本 ・・・ 46
学習指導要領等によるふれ合い体験の位置づけ ・・・ 49

ふれ合い体験の効果

▸ふれ合い体験は、中学生側だけではなく乳幼児側にとっても得るものがある活動といえます。実際に、ふれ合い体験を園で受け入れた経験のある保育者や乳幼児の保護者の多くが、ふれ合い体験を肯定的にとらえていました。ふれ合い体験先を新規開拓する場合には、ふれ合い体験が中学生側と乳幼児側の双方にとって互恵的な活動だということが相手に伝わると、受け入れ先の理解を得やすいです。

中学生側の効果

■中学生にとっての効果

・乳幼児への肯定的な感情を持つ
・乳幼児への理解が深まる
・中学生が自分自身について考える機会になる
・養育者としての役割を理解する
・中学生が自分の保護者との関係について考える機会になる
・自尊感情や自己肯定感が高まる

中学生の保育学習後の幼児の印象（アンケートより）

中学生たちがふれ合い体験をしている様子を見て、普段の学校生活で見ている顔とは違う姿を知り、中学生の新たな一面に気がつく機会になりました。
（中学校の教員）

（参考：『家庭科の幼児とのふれ合い体験学習ガイドブック』（岡野ら，2009））

乳幼児側の効果

■乳幼児にとっての効果

・同じ地域で生活をする異年齢との交流の機会となる
・普段とは異なる遊びなどの経験ができる
・中学生への「あこがれ」から、成長することへの肯定的な気持ちを持つ
・幼児が中学生に甘える姿など、普段の様子とは異なる一面が出ることがある

子どもたちのやりたい遊びに中学生がじっくり付き合ってくれたので、子どもたちも充実した表情をしていました。
（幼稚園教諭）

中学生のお兄さんお姉さんと一緒に昼食を食べたことがきっかけで、苦手なものを克服できた子がいました。
（保育士）

■ふれ合い体験を実施した保育者や施設の職員にとっての効果

・保育者と乳幼児の絆を再確認する機会になる
・保育者や職員にとっても仕事の社会的意義や使命を自覚する機会になる
・中学生のふれ合い体験を受け入れることは、長期的な視野でみた子育て支援につながる（中学生たちは未来の保護者になる）

■乳幼児の保護者にとっての効果

・乳幼児のこれから先の姿をイメージすることにつながる
・ふれ合い体験で乳幼児と一緒に中学生と接することで、普段はあまりかかわる機会がない中学生のことを知る機会になる

ふれ合い体験にかかわる事務手続きの流れ

（『家庭科の幼児とのふれ合い体験学習ガイドブック』（岡野ら，2009）をもとに作成）

中学校	受け入れ先の園など
3～4月頃 学校長へふれ合い体験の実施に向けて学習指導計画、教科の意向を伝える （▸P.6【ポイント1】中学校側への対応）	地域との連携をふまえた指導方針の共通理解
家庭科担当者から、ふれ合い体験の受け入れ先候補の施設へ、依頼の電話を入れる （▸P.6【ポイント2】受け入れ先探し）	・活動概要の理解 ・日程の検討 等
内諾を得たことを学校長へ報告	内諾
内諾後すみやかに 校内への連絡、 該当学年への連絡・協力の依頼 （▸P.7【ポイント3】他教科教員との連携）	・日程の調整 ・活動内容の確認 ・注意事項等の確認 （▸P.10「ふれ合い体験の事前打ち合わせチェックリスト」）
遅くとも実習1ヶ月前までに 職員会議にて、ふれ合い体験の詳細連絡、共通理解	園内での保育者間の打ち合わせ、共通理解 （担当クラス、活動内容、活動時間　等）
職員会議後なるべく早い時期に ふれ合い体験の依頼文書を提出 （▸P.7【ポイント4】受け入れ先へのお願い）	
具体的な実施に関する打ち合わせ （当日の活動の流れ、服装、持ち物、注意事項の再確認）	
ふれ合い体験の実施	
実習後なるべく早い時期に 生徒の感想文・今年度の反省・来年度に向けての課題 （▸P.7【ポイント5】ふれ合い体験実施後の幼稚園・保育園・生徒へのアフターケア）	
次回のふれ合い体験に向けて意見交換	

ふれ合い体験の実施までのプロセスとアフターケア

川村学園女子大学（元中学・高等学校家庭科教諭）齋藤美重子先生

教員の思い

何と言っても、ふれ合い体験をさせたいという家庭科教員の強い思いを持ち続けることが必要だと思います。まず、何を目的として行いたいのかを自問自答し、その目的を明確にしなければなりません。なぜならば、学校側に対しても幼稚園・保育所(園)側に対しても、その意義（主旨）を説明しなければならないからです。ふれ合い体験をとおしたカリキュラムの目標は各先生方により異なると思いますが、私は中学校側の先生方には次の3点を強調しました。

①異年齢の子どもと触れ合うことによる他者理解とコミュニケーション能力の向上。
②『育てられている時代』に自らが育っていることを学ぶ。ケアの倫理や人権、自己の振り返りを行うことができる。
③現代の子どもを取り巻く環境の課題に気づき、自らの生活に関わらせて把握するとともに、社会制度や環境整備についての理解を深め、課題解決に向けて行動することができる。市民性の育成。

【ポイント1】中学校側への対応

まず、3月末にふれ合い体験実習を行いたい旨を教務主任に打診しました。特に学習指導要領内容に入っていること、内容の取扱いでは『幼稚園，保育所，認定こども園などの幼児の観察や幼児との触れ合いができるよう留意すること』（中学校学習指導要領（平成29年））、と記されているという点は大事なポイントです。何と言っても学習指導要領は管理職を説得させるための伝家の宝刀です。

ふれ合い体験学習がただ遊ぶだけの交流ではなく、体験とその前後の授業によって子どもの発達段階についての知識を深め、自分の成長を振り返ることに繋がること、子どもを取り巻く課題について自分事として考え学びを深められること、ケアをしながらケアされることを実感を伴って知ることができること等を説明し、賛同を得られるように努めました。その意義をご理解いただいた教務主任から、副校長・校長に伝えてもらい、私からも再度説明し、承諾してもらいました。

次にしなければならないことは、ボランティア保険に生徒たちが加入しているかの確認です。もしも入っていなければ、生徒全員がボランティア保険に加入するよう、事務にお願いしなければなりません。幼稚園・保育所(園)の物にぶつかって壊したなど、万が一に備える必要があります。

【ポイント2】受け入れ先探し

校長の許可が出たところで、今度は受け入れ先探しです。4月、区の教育局に幼稚園・保育所（園）を紹介していただけるよう連絡しました。すぐにご賛同いただき、幼稚園を紹介してもらえる流れでした。（各市区町村によっては教育局で紹介していただけます。）しかし、私の場合、『中学校から徒歩で行けて、全員を受け入れ、時間帯が合う幼稚園は見つからなかった』との連絡を受け、暗礁に乗り上げました。お互いに交流の意義は理解しつつも、幼稚園では午後はお帰りの支度、保育園ではお昼寝タイムと、カリキュラム上難しい問題が起こります。私としても実習1年目から時間割を変更してもらうことは学内でのハードルが高く、何とか1学年4クラスの時間帯(当時は3限、4限、5限、6限)に、それぞれ受け入れてくれる公立・私立の幼稚園・保育所（園）等がないか、自力でHPと地図を見ながら探しました。徒歩圏内、できれば10分以内の幼稚園・保育所（園）に放課後電話をかけ、『一人っ子の多い時代に、異年齢の子と関わることでお互いに気づきがあり成長するのではないでしょうか？』とか、『1クラスでも2クラスでも受け入れてくれませんか？』などとお願いしました。中学校・高等学校側からすれば、1か所の幼稚園で受け入れていただければ、見知った先生方と園児との交流であるため、安心感と生徒たちに対する平等感があり、理想的ではありますが、受け入れ側からすれば、保育園や幼稚園にいろいろな行事のある中で、中学生の受け入れを何回も同じような内容で行うことは、園の先生方にも園児にも負担がかかることになってしまいます。お互いが今後も継続していくためには無理は禁物です。園児にも中高校生たちにもお互いの学びを尊重してお互いがメリットを感じられるものにしなければならないでしょう。

同じ園で同じプログラムを行ったとしても、園児はその日の気分によって全く異なる態度を示すことはよくあること、それは生徒側も同様で、人間同士の交流なのでその日その日で異なるものになることは当たり前です。たとえ受け入れ先が別々であっても何も体験をしないよりも良いとの割り切りも大切ではないでしょうか。また、別の保育園や幼稚園で行うと、生徒たちはそれぞれの違いを比較できるという収穫があります。

結局、2クラスは同じ公立幼稚園で承諾していただきました。もう1クラスは私立保育園、さらにもう1クラスは私立幼稚園で受け入れていただくことになりました。まずは電話で時間帯と回数を確認した上で、直接ふれ合い交流のプログラムについて相談するため、受け入れ先に伺いました。

【ポイント3】他教科教員のとの連携

担当学年会の先生に連絡をするとともに、職員会議での資料(目的・意義・受け入れ先の説明・体験内容等)を用意しました。校長・副校長・校務主任の了解は得ているので、すんなりと通りました。

しかし、事前にふれ合い体験学習を行う日程・持ち物等については担任の先生と連絡を密にとりました。体験後、すぐに担任の先生には普段見られない生徒たちの素の様子の写真や生徒の感想を渡しました。生徒の楽しそうで慈しみを持った表情や感想などを見て、どの担任の先生にも喜んでいただけました。こうしたことが他教科の教員の方にふれ合い体験の意義を本当に理解してもらうことにつながるのではないでしょうか。また、受け入れ先に了解を得てから学校HPに載せてもらうことも、保護者から好意的に受け入れられ、さらに他学年の先生の興味を引きだし、より協力的になってくれるように思われます。すべての先生に、すぐに理解してもらおうなんて不遜です。無理をせず、ゆっくり定着させていこうという心持が大切ではないでしょうか。

【ポイント4】受け入れ先へのお願い

ふれ合い体験先が正式に決まった段階で依頼状を作成し、副校長の承諾後、依頼状を受け入れ先に送付しました(▸右ページ『ふれ合い体験先への依頼状の例』)。

幼稚園・保育所(園)での活動については、園の流れに則り、基本的に園の先生方主導でプログラムを考えていただきましたが、一つ私からお願いしたことは、なるべく生徒1人に対して園児1人を担当できるように組んでいただくことです。なぜならば、生徒には引っ込み思案であったり、小さい子に対して苦手意識がある場合、グループで行動してしまうと全く関わらない場合がありますが、1対1にすると、関わらざるを得なくなるからです。そういう生徒たちも一人の園児と一緒に行動することになり、『想像していたのと違って意外と大丈夫だった』との感想が得られます。もちろんすべてうまくいくわけではないので、事後のアフターケアも必要になりますが・・・。

【ポイント5】ふれ合い体験実施後の幼稚園・保育園・生徒へのアフターケア

ふれ合い体験学習終了後は、上手く交流できなかった生徒へのアフターケアも必ず必要だと思います。ですから、生徒たちの感想をすぐに読むことが重要です。幼稚園・保育所(園)には、御礼の電話を入れ、生徒たちの感想に基づき、今後の改善策などを検討する場合があります。その後、生徒たちの感想(名前を伏せたもの)をお持ちして、交流の継続をお願いしました。

ふれ合い体験を初めて行う時には不安で大変そうに思えるかもしれませんが、行動に移してしまえば何とかなるものです。小さい子に苦手意識を持っている生徒もいるし、アフターケアの必要な生徒もいるかもしれません。ただ、体験で生徒たちが得るものは教科書にある言葉以上の力を持つことさえあります。多くの先生方にチャレンジしていただきたいと心から思います。

ふれ合い体験先への依頼状の例

K中第 〇〇号
平成 〇〇年 〇月 〇日
K中学校長
〇〇〇 〇〇

A幼稚園長殿

保育見学・交流依頼について

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

本校家庭科では、『乳幼児の保育』学習の一環として、乳幼児に触れる機会の少ない生徒たちに、見学・交流を通して子どものありのままの姿に触れ合うことにより、子どもに対する理解や子どもへの愛情を育み、子どもをとりまく環境を考える授業の学習効果の向上に期待しております。

つきましては、ご多忙中大変恐縮とは存じますが、お引き受けいただいた下記の日程通り実施させていただきたく、よろしくお願い申し上げます。

記

1. 目的

①保育には温かい人間的交流が必要であり、社会の一員として、また、親として男女ともに責任があることを自覚するとともに、自分と他者との人間関係を見直す。

②見学を通して、子どもについての理解や心身の発達過程を把握し、発達段階に応じた育児の大切さを知る。

③乳幼児の生活から遊びの意義を理解し、発達に即した児童文化財の選択ができるようにする。

④集団保育の重要性を知り、人権を大切にし、ともに育ち合うことの大切さを知る。

⑤『育てられている時代』に自らが育っていることを学び、自分を見つめなおす。

2. 見学・交流対象者および見学・交流日時

K中学校 中学3年1クラス

〇〇年 〇月〇日(〇) 〇:〇~ 〇:〇 3年B組(後半グループ 20名)

〇〇年 〇月〇日(〇) 〇:〇~ 〇:〇 3年B組(前半グループ 20名)

3. 事前準備・事後指導

①乳幼児の発達段階の特徴を学ぶ。

②乳幼児の遊びの意義を学び、発達段階に合わせたおもちゃ作りを行う。

③見学・交流後はレポートにまとめ、子どもをとりまく環境について考える。

4. 家庭科指導責任者

家庭科教諭 齋藤美重子

その他お問い合わせ等がありましたら、下記担当までお願いいたします。

【お問い合わせ】 K中学校
副校長 〇〇 〇〇
家庭科教諭 齋藤美重子
〒113-0021 東京都〇〇区〇〇1-2-3
電話: 03-1234-5678
ファクシミリ: 03-1234-6789

安全で充実したふれ合い体験にむけて

▸実際にふれ合い体験を受け入れた経験のある保育園・幼稚園の先生方への調査結果をふまえて、安全面等の事前指導のポイントをまとめました。

中学生への事前指導のポイント

■乳幼児の手本となることを心がける
子どもたちにとって中学生はあこがれの存在であり、中学生の真似をしたがることがあるという乳幼児の特徴に触れ、中学生は乳幼児とかかわる際の言葉づかいや態度、マナーなど、手本となるような姿を心がける。

■体験中は周囲の安全に気をつける
乳幼児は中学生と比べてまだ視野が狭く、身体機能も未熟なため、中学生が周囲の安全に気をつけてかかわる。

■当日のタイムスケジュールや持ち物などを確認

■乳幼児とのかかわりの際の禁止事項について確認

■衛生面に気をつけ、身だしなみをととのえる
・体調が悪いときには事前に教員に申し出る。
・髪が長い人は結ぶ。
・爪は乳幼児を傷つけてしまう危険もあるので、短く切っておく。
・乳幼児とかかわる前には手をよく洗う。

■乳幼児にとって危険なものは身につけない
・ヘアピンやアクセサリーなどは乳幼児が誤飲したりケガをしたりする危険があるので身につけないようにする。

■乳幼児のプライバシーを守る

■何か困ったことがあった時には、必ず教員や保育者に連絡をする

乳幼児側のふれ合い体験にかかわる人に伝えておくとよいこと

■多くの中学生は乳幼児とかかわった経験がほとんどない

■中学生はふれ合い体験を楽しみにしているが、不安な気持ちも大きい

■中学生もまだ成長途中のため、幼児から傷つくようなことを言われたりされたりしたときに、どう対応したらよいのかわからない

■初めての経験に緊張もあるため、中学生に役割を与えてもらうなどの具体的な活動の指示があると自信をもって行動をしやすい

（参考：『家庭科の幼児とのふれ合い体験学習ガイドブック』（岡野ら，2009））

事前打ち合わせでの確認事項

中学生側・乳幼児側の双方にとってふれ合い体験が良い経験の場となるように、事前の打ち合わせでは特に、下記チェックリストの内容をおさえておくとよいでしょう。

ふれ合い体験の事前打ち合わせ　チェックリスト

当日の活動について
□ふれ合い体験の目的と意義
□中学校での事前学習の状況
□参加者の人数
□支援体制（引率者、当日の活動をサポートする人）
□実施時間
□当日のタイムスケジュール
□中学生の服装、身だしなみ、持ち物

活動場所について
□活動場所までの移動経路・移動手段
□活動場所（危険な場所の確認）
□活動時の導線
□園庭や遊具等の扱い方で気をつける点

乳幼児とのかかわりについて
□乳幼児へのかかわり方のルール
（立って抱っこをすることはしてもよいか 等）
□配慮が必要な子ども・生徒について

その他の確認事項
□保険への加入状況（中学生・乳幼児）
□当日の連絡先
□ふれ合い体験後のアフターケア、フィードバックについて

【事前学習】ふれ合い体験前の授業づくりのポイント

▸直接乳幼児の様子を観察したり自由にかかわるだけでも、中学生はふれ合い体験を通して多くのことを感じ、学習していますが、ここではさらに限られたふれ合い体験時間の中でより学習効果の高い経験ができるための準備として、かかわりに関する事前学習のポイントを紹介します。

ポイント１
ふれ合い体験の「出会いの場面」のかかわり方について扱う

ふれ合い体験の序盤では、乳幼児とこれからどのようにかかわればよいのか、不安を感じている中学生も多いです。出会いの場面で交流のきっかけを掴めると、その後のかかわりがスムーズに進みます。例えば、あいさつをする場面を想定して幼児との会話のきっかけとなるような自己紹介を考えたり、実際に練習してみたりするのもよいでしょう。

〇自己紹介の例

「こんにちは。私の名前は〇〇です。（△△って呼んでね。）好きな食べ物はハンバーグです（好きな色・遊びなど幼児と共通の話題を持ちやすい内容を話す）。みんなに会えるのをとても楽しみにしていました。よろしくお願いします。」

ポイント２
中学生の名札（ひらがなで書いたもの）を用意する

ふれ合い体験でかかわる幼児の年齢によっては、自分でひらがなが読める子もいます。ふれ合い体験では「お兄さん、〇〇くんとおんなじお名前だね。」と名札をきっかけに会話をする様子や、まだ自分では文字が読めない子も「なんて書いてあるの？」と名札に興味をもって中学生に話しかける様子がみられます。

〇名札の工夫例

・画用紙で幼児の興味を引くデザインを考えて作る(写真)。
・被服領域の学習と関連づけてフェルトを使った名札を作る。
※施設で安全ピンの使用を禁止している場合もあるので、事前に乳幼児側の担当者に確認をする。

ポイント３
いろいろな乳幼児がいることに触れる

事前学習では、乳幼児期は発達の個人差が大きいことや、いろいろな個性を持った子どもたちがいることに触れておきましょう。ふれ合い体験では、初めて出会う中学生にドキドキして保護者や園の先生の後ろに隠れたり、泣いてしまったりする子もいるかもしれません。でもそれは、信頼できる大人との関係が築けている、子どもの成長の証だということを中学生が理解しておくと、中学生もかかわりの中での不安が和らぎます。

ポイント４
実践的なかかわりの場面を想定し、かかわり方を考える

ふれ合い体験中、目の前にいる幼児に対してどのように声をかけたらよいのかや、幼児からのアクションに対してどう反応したらよいのかが分からずに戸惑う中学生もいます。ふれ合い体験を通してこうした戸惑いを経験することも、中学生にとっては意味のあることですが、時には起こった出来事が自分の中で処理しきれずに、乳幼児とかかわることがつらくなってしまう場合があります。ふれ合い体験で起こりうる出来事を事前に想定しておくと、実際にその場面に遭遇したときに、臨機応変に行動ができるかもしれません。事前学習では、言葉かけの例を示したり、中学生が幼児といる場面を想定して、幼児の行動を受け止めるためのどのような方法があるのかを考えたりするなどの方法があります。

〇実際のふれ合い体験で中学生が対応に困った場面の例

- 一度にたくさんの幼児が話しかけてきて、どうしたらいいかわからなかった。
- 昼食時、幼児が空っぽになったお弁当箱を無言で自分に見せてきたが、どう反応したらよいのか分からなかった。幼稚園の先生に「全部食べたことをほめてあげて」と言われて、「すごいね！」とほめたらとても喜んでいた。
- ふれ合い体験の最後に、AちゃんとBちゃんから「お姉さんの名札ちょうだい」と言われた。でも名札は１つしかないので困った。
- 幼児が叩いてきたり、ズボンを降ろそうとしてきたりして嫌だった。でも幼児が楽しそうだったので、自分も一緒に笑うことしかできなかった。

ポイント５
かかわり方の一つとして「スキンシップ」があることを伝える

幼児とかかわる中で、幼児から手をつないできたり、抱きついてきたりする場面はよくみられます。多くの中学生は自然にそれを受け入れてかかわる姿がみられますが、中には普段の生活の中では行わないかかわり方に戸惑う中学生もいます。スキンシップという形でのかかわりは、幼児の安心感を引き出し、幼児にとって大切なかかわり方の一つだということを中学生が知識として持っておくことが大切です。また、幼児と会話をするときは「目線を合わせる」「ゆっくり、はっきりと話す」等の基本的な姿勢もおさえておくとよいでしょう。

※危険のないように、ふれ合い体験時には幼児とのどこまでの接触はOKという線引きをきちんと決めておきましょう。
（例：座ったままの抱っこはOK、肩車はNGなど）

【事後学習】ふれ合い体験のふり返り

ふれ合い体験を通して、中学生は乳幼児や保護者・保育者とのかかわりからさまざまなことを学び、感じています。同じ空間でふれ合い体験をしても、個々の中学生が見てきたことや感じたことはそれぞれです。また、実際に乳幼児とかかわることで、乳幼児が自分に見せてくれた姿がどのような意味を持つのか疑問を持ったり、かかわり方に難しさを感じたりする場面を経験した中学生もいるでしょう。

事後学習では、一人ひとりの中学生のふれ合い体験での経験を共有化し幼児の多様な姿を知り、自分の経験をふり返ったり、他者の経験を知ることで、かかわり方の工夫について考えたりする時間が持てると保育学習がさらに深まります。

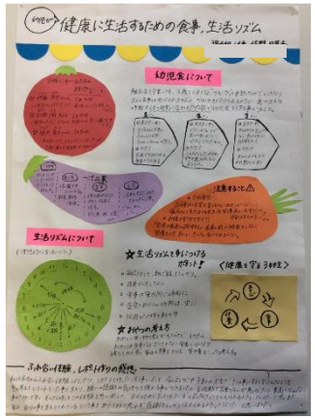
事後学習 例１
「個人でレポートにまとめ、クラスで共有化する」

資料提供：◆浜松市立南陽中学校 外波山真菜先生

P.31～32「事例８」のふれ合い体験後にレポート作成(2時間)とレポート発表会(1時間)を行いました。個人でレポートのテーマを決め、ふれ合い体験で乳幼児や保護者とのかかわりから学習したこと、さらに自分で調べた内容をレポートにまとめました。学級ごとにレポート発表会を行い、同じ年齢でも子どもによって、性格や情緒の表し方が違うことを知ったり、自分が聞けなかった保護者への質問も他の生徒がしていた場合は、情報を得ることができ、様々な知識を増やすことができていました。発表会後は家庭科室前にレポートを掲示し、次年度のふれ合い体験の参考にしてもらえるようにしました。

【レポートのテーマ例】

- ▸小さな命とふれ合い感情の変化を知る
- ▸赤ちゃんが与える影響とは？
- ▸幼児が楽しいと感じる行動・嫌と感じる行動
- ▸赤ちゃんとの生活の大変さ・楽しさ
- ▸幼児が健康に生活するための食事・生活リズム
- ▸赤ちゃんの生活とママの生活
- ▸赤ちゃんの一日
- ▸幼児の成長と個人差



事後学習 例２
「個人でナラティブにまとめ、クラスで共有化する」

資料提供：◆元さいたま市立本太中学校 金子京子先生

P.17～18「事例１」のふれ合い体験後に生徒が個人内でナラティブ(※)を書く時間(1時間)と教師が提示した視点に沿って分析する時間(1時間)を設け、その後の3時間の学習では、個人が書いたナラティブをもとに幼児とのかかわり方や幼児の食・遊び・環境に関する内容をクラス全体で共有化しました。ナラティブを書くことで、中学生は自分の経験した出来事やその時に感じたことを整理することができ、幼児の特徴や個性に応じたかかわり方の工夫等に関する知識を深めることができました。

※ナラティブ…ここでは「中学生がふれ合い体験をふり返り、時系列的に経験したことを書きつつ、その時に感じたことや考えたことを記述したもの」のことを指す。B4サイズの無罫線の用紙を縦置き・横書きに使い、ナラティブを書いた。

【中学生が書いたナラティブ】

幼稚園に着いたときどんな子がいるんだろう、一緒に遊んでくれるかなという不安があった。園庭に入ると、幼児たちが窓越しに笑って手を振ってくれていて、とても嬉しかった。その時から早く幼児たちと遊びたい、話してみたいという気持ちが強くなっていった。それからすぐに部屋へ入ろうとすると、沢山の幼児が押し寄せるように出てきて『名前はなに？』『ねえ、妖怪ウォッチ知ってる？』と色々なことを聞かれ少し戸惑ったが、みんなすぐに仲良くしてくれてとても嬉しかった。しかし、しばらくその状態が続き先生が声をかけてもなかなか席に戻らないので少し大変だった。　～中略～　昼食を食べ始めるとグループ全員から一斉に話しかけられて戸惑って、何とか順番に話すことができたので安心した。

しかし、弁当を見るとみんなおかずから食べてしまっていたり、野菜、肉が多く残ってしまっていた。聞いてみると、みんな嫌いなものは後に残してしまうことがわかった。なので、話しながら『早く食べたらもっと遊べるよ！』などと言ってみると、『じゃあサッカーしようぜ！』『もっとお話したい！』とグループのみんなが口々に言い、少し食べる速度が速くなった気がした。

この中学生は「早く食べたらもっと遊べるよ」と幼児たちに声をかけるかかわり方の工夫で、お弁当を食べることを促していました。

【クラス全体での共有化】

教　　師「幼児がまだ残っているお弁当を食べられるように、どのようなかかわり方の工夫をしましたか？」
中学生 A「がんばれ！！って応援して、食べられたらいっぱい褒めた。」
中学生 B「これ食べたら一緒に遊ぼうねって声をかけた。」
中学生 C「じゃんけんをして負けたら牛乳を飲むゲームをした。」
中学生 D「気長に待った。」
中学生 E「幼児のフォークでおかずを一口サイズに切ってあげた。」
中学生 F「幼児の口まで運んであげた。」
中学生 G「自分も一緒に苦手なものを食べた。」
(教師は中学生の意見に都度肯定的なコメントをしつつ、板書をまとめる)

- ▸同じお弁当を食べる場面でも、一人ひとりのかかわり方は異なります。他者のかかわり方の工夫を知ることで、自分の幼児へのかかわり方をふり返ったり、新しいかかわり方の方法を知ったりすることができます。
- ▸教師に自分の幼児へのかかわり方を受け止めてもらうことで、中学生は自信が持てるようになります。

このほか、実際の授業ではふれ合い体験を通して「快かったこと」「不安だったこと」「不快だったこと」「園の環境から気がついたこと」「幼稚園教諭から学んだこと」等の視点から経験や学びを共有化しました。

さまざまなふれ合い体験の形

▸地域の状況やふれ合い体験のねらい(目的)によって、いろいろな方法でふれ合い体験をすることができます。

例えば…

一斉の活動
○園の先生から全体への声かけのしかたや動作を学ぶ
○幼児の発達段階に合わせた活動内容を知ることができる

自由な活動
○個別の幼児へのかかわり方を学ぶ
○幼児の好きな遊び・興味のあるものを知ることができる

室内での遊び
○幼児の手先の器用さを知ったり、言葉を介したコミュニケーションをとったりする機会が多い

屋外での遊び
○幼児の体力や運動能力について知る機会が多い

中学生と幼児がペアを組む
○自分から積極的に幼児とかかわることが苦手な生徒にとっては、一緒にいる相手が決まっているので交流の機会を得やすい
○特定の相手との活動が中心となる（ペアとの相性も重要）

特定のペアは決めずに交流
○いろいろなタイプの幼児を見ることができる
○幼児とかかわることを意識していないと、中学生同士で固まって過ごしてしまうことがある

▸活動内容によって、中学生が気がつきやすい幼児の特徴が違います。

例えば…

一緒に運動をする
○幼児の体力や運動能力についての特徴を知る

一緒にお弁当を食べる
○幼児の食事量、食事内容、食事のペースについて知る
○椅子に座っての活動なので、幼児との会話の機会が得やすい

異なる年齢の幼児との交流
○年齢による発達の違いを知る

中学生が劇や出し物をする
○中学生が想定していた幼児の反応と、実際の反応との違いを知ることができる
○幼児が集中して劇などを観る姿を観察することができる

ふれ合い体験のパターン(型)による特徴・事例紹介

中学生が保育園・幼稚園・認定こども園等の施設へ訪問するふれ合い体験

Ⅰ乳幼児施設訪問型 P.17～20

中学生が保育園・幼稚園・認定こども園といった子どもを預かる施設へ訪問し、ふれ合い体験をする。直接近隣の園とやり取りをして、ふれ合い体験を実施する場合が多い。

◎園児の生活環境を見ることができる
◎園児が慣れた環境で交流ができる
◎保育者のかかわり方を見ることができる
◎園児の移動の負担がない
△園までの移動時間も確保しなければならない
△授業を担当する家庭科教員以外にも引率者がいたほうがよい

中学生が児童館等の子育て支援施設へ訪問するふれ合い体験

Ⅱ地域交流拠点訪問型 P.21～24

中学生と乳幼児（＋保護者）が児童館や児童センター等の子育て支援施設に集まり、ふれ合い体験をする。施設が中心となってふれ合い体験の企画をしていたり、施設が中学校からの依頼を受けて、施設を利用する親子に声をかけ参加者を募集することが多い。

◎子どもの遊び環境を見ることができる
◎子どもが慣れた環境で交流ができる
◎子どもの保護者とも交流をすることができる
◎施設のスタッフの方の協力を得やすい
△施設までの移動時間も確保しなければならない
△授業を担当する家庭科教員以外にも引率者がいたほうがよい

園に通う子どもたちが中学校へ来校するふれ合い体験

Ⅲ園児来校型 P.25～30

保育園・幼稚園・認定こども園に通う子どもたちが中学校に来校し、ふれ合い体験をする。直接近隣の園とやり取りをしてふれ合い体験を実施する場合が多い。

◎事前準備がしやすい
◎中学校の授業時間の区切りで活動ができる
◎調理室など、中学校の設備を使った活動ができる
◎保育者のかかわり方を見ることができる
△乳幼児向けに整えられた環境ではない
△園児の移動の負担がある

乳幼児親子が中学校へ来校するふれ合い体験

Ⅳ親子来校型 P.31～34

乳幼児とその保護者が中学校に来校し、ふれ合い体験をする。行政や民間の団体等が主体となってふれ合い体験を企画したり、児童センター等が中学校からの依頼を受けて乳幼児親子の参加者を募集したりしている。

◎子どもの保護者とも交流ができる
◎事前準備がしやすい
◎中学校の授業時間の区切りで活動ができる
◎地域によってはふれ合い体験をサポートしている団体がある。ない場合も地域の子育て支援センターなどに相談をすることで実施できる可能性がある
△乳幼児向けに整えられた環境ではない
△親子に来校してもらう必要がある

複数回のふれ合い体験を取り入れた保育学習 P.35～37

事例1
『食育レッスン』『一緒にお弁当を食べる』活動を取り入れた幼稚園でのふれ合い体験

資料提供：◆元さいたま市立本太中学校　金子京子先生
（現　さいたま市立初任者指導教員）
◆学校法双恵学園そうけい幼稚園

ふれ合い体験のねらい

▸幼児の特徴を観察しながら、かかわることができる。
▸幼児を育てる環境について理解する。
▸幼稚園教諭の園児へのかかわり方を観察することができる。
▸幼児への食育レッスンを通して幼児の食について理解する。

体験当日の実施概要（クラス毎に実施）

実施時期	10月～11月
時 間 数	約2時間
実施場所	中学校から徒歩圏内の私立幼稚園
人数構成	●中学3年生（（1クラス，約40名） ●幼稚園児（年少・年中・年長 各2クラス，約110名）
支援体制	●中学校側：家庭科教諭1名＋中学生保護者ボランティア1名（事前に手紙を配布して募集）＋（クラス担任1名） ●幼児側：各クラス担任＋フリーの保育者
活動形式	中学生が事前に決めたグループ毎に６つの幼児クラスに分かれ、各クラスでの活動を中心に交流する。

活動のポイント

✔幼稚園でふれ合い体験を実施する場合は、幼稚園の教育時間に合わせて午前中に体験ができるように調整すると園側の負担が少ない。
✔一緒にお弁当を食べる活動は、幼児とゆっくり会話をする時間が得やすく、幼児の言葉や食事に関する理解が深まる。また、中学生の量の多いお弁当、食べる速さや、豪快に食べる様子は、幼児の食に対する意欲を増すことにつながる。
✔事前に幼稚園を通して園児の保護者に手紙を配布し、園児の苦手な食べ物がある場合はあえて当日お弁当の中に入れてもらった。園児にとっても、ふれ合い体験が苦手な食べ物を克服できる機会となるようにエ夫した。

補足事項

✔中学生は全6クラスあり、クラスごとに中学校から徒歩圏内の4つの私立幼稚園のいずれかでふれ合い体験を実施した。

保育学習全体の授業計画（18時間）

1 私の幼児期をふり返ってみよう
2 赤ちゃん人形を抱っこしよう
3 新聞紙で遊びをつくろう
4 ふれ合い体験の説明
5 絵本の読み聞かせ
6 食育レッスンビデオ視聴
7 食育レッスン準備
8 食育レッスン準備
9 食育レッスン発表会
10 幼児の会話から発達を考える
11 ふれ合い体験直前指導
12 ふれ合い体験
13 ふれ合い体験
14 ナラティブを書く
15 ナラティブ分析
16 ナラティブの共有化①
（様々な幼児とのかかわり方について）
17 ナラティブの共有化②
（幼児の食に関するかかわり方について）
18 幼児の遊び・環境について

食育レッスンについて

食育レッスンでは、中学生が幼児に対して5分程度の食育をテーマにした劇やダンス、クイズ、ペープサートなどを用いた「教える活動」を行った。食育レッスンを行うことで、幼児側・中学生側の双方に次のようなメリットがある。

幼児側のメリット
○幼稚園側からのセッティングばかりでなく、中学生からの教育的な内容を幼児に提供してもらえる。
○中学生に対して憧れの気持ちを持つ。

中学生側のメリット
○食育レッスンの準備を通して、小中学校で習った食の学習を活かすことができる。
○積極的に食育レッスンに参加してくれる幼児の反応は、中学生の自信につながる。

体験当日の流れ

園舎の中にいる幼児からは「中学生、大きい！」「待ってたよー！」という声が聞こえてきました。

中学生も幼児も、お互いのお弁当のサイズに驚き！好きな食べ物・苦手な食べ物、キャラクターや遊びの話で盛り上がりました。

園庭ではサッカーや鬼ごっこが人気。室内ではままごと遊びやピアノを披露する園児・中学生もいました。自由遊びの時間は違う年齢の幼児の様子を知る機会にもなっていました。

中学生が幼稚園に到着
●中学校から徒歩で幼稚園へ向かう（徒歩20分程度）。

園庭にて全体のあいさつ
●学級委員が代表であいさつ。
●園長先生からの歓迎の言葉、ふれ合い体験中の注意事項を確認。

各クラスに分かれて活動
●中学生はあらかじめ決めてある6つの幼児クラスに分かれる。
●クラスで中学生が自己紹介。
●中学生が事前に準備してきた食育レッスン（劇やクイズ）を実施。
●クラスの先生を中心に、一緒に歌う、クイズなどの交流。

一緒にお弁当を食べる
●幼児は6グループに分かれてお弁当の準備をする。
●各グループに中学生が1～2人ずつ入り、一緒にお弁当を食べる。

自由遊び
●園庭や室内で思い思いに遊ぶ。

お別れのあいさつ
●各クラスでお別れのあいさつ。
●中学生のみ園庭に集合、代表者がお礼のあいさつ。
●園長先生のお話。
●お別れのあいさつ。

幼稚園を出発
●徒歩で中学校へ戻る。

事例２
『一緒に体操をする』活動を取り入れた幼稚園でのふれ合い体験

資料提供：◆都立小石川中等教育学校 牧野千恵子先生
◆学校法人東洋大学京北幼稚園

ふれ合い体験のねらい

▸現代は、家族形態の多様化や少子化の進行とともに家庭生活も変化し、中学生が幼児と関わる機会は極めて乏しくなってきていると言われる。こうした現状から異世代である幼児を理解し、思いやりや温かな心を育み、人間の成長、発達とそれにかかわる家庭や社会を認識することは意義深いことである。また、自分の成長を振り返り、中学生になるまで家族や周囲の人々に支えられたことに気づかせる。
▸心身の発達と生活・遊びを理解すること、幼児の手作りおもちゃ製作にとどまることなく学習したことを基に、体験として「幼児とのふれあい」学習に繋げていきたい。

体験当日の実施概要（1/2クラス毎に実施）

実施時期	11月
時 間 数	1時間(45分授業)
実施場所	中学校から徒歩圏内の私立幼稚園
人数構成	●中学3年生(1/2クラス,20名) ●幼稚園児(年中・年長 各1クラス,計70名)
支援体制	●中学校側：家庭科教員1名 ●幼児側：保育者約3名＋体操指導者1名
活動形式	中学生と幼児がペアを組み、幼稚園の活動として設定されている体操の時間に中学生が一緒に参加する形でふれ合い体験を行う。

保育学習全体の授業計画(6時間)

1 幼児の心身の発達と生活①
（ふれ合い体験時に使う名札づくり）
2 幼児の心身の発達と生活②
3 幼児の生活と遊び
（折り紙でクマの指人形をつくる）
4 ふれ合い体験
5 ふれ合い体験のレポート作成
（レポート提出、卒園児にプレゼントするマスコット製作①）
6 まとめ学習(マスコット製作②)

幼児へのおもちゃのプレゼント『クマの指人形』について

ふれ合い体験前の事前学習時に製作し、体験当日は幼児と楽しくコミュニケーションを取るため、代表の中学生が指人形を使いながら挨拶をする。クマの指人形を使うことで、幼児の注目を集めることができ、さらに中学生は幼児へのプレゼントを通して相手に喜んでもらえたという実感を持つことができる。
完成したクマの顔に目などは描かずに、幼児の年齢に応じた工夫ができることを伝える。

活動のポイント

✔幼稚園児たちの普段の活動に中学生が参加するという形をとることで、中学校と幼稚園間の移動の時間も含めて1時間という授業時間の中でも充実したふれ合い体験を実施することができる。
✔中学生と幼児のペアをつくり活動をすることで、短い時間の中でも全ての中学生が幼児とかかわる機会を持つことができる。

補足事項

✔中学生は1クラス(40名)を半分(前半グループ・後半グループ)に分け、技術分野と家庭分野が同じ時間帯に同時進行で授業を実施している。そのため、1回あたりのふれ合い体験参加人数は20名であった。
✔中学生は全3クラスあり、クラスの半数（前半グループ・後半グループ）ごとに、中学校から徒歩圏内の4つの私立認可保育園または私立幼稚園のいずれかでふれ合い体験を実施した。

体験当日の流れ

中学生が学校の正門に集合・出発
●授業開始5分前に中学校の正門に集合。出席確認、名札配布。
●中学校から徒歩で幼稚園へ向かう(徒歩10分程度)。

幼稚園到着 クラスへ移動
●園の入口で持参した上履きに履き替える。
●中学生は自分の担当クラスへ行く。

代表の中学生がクマの指人形を使って挨拶をすると、幼児たちはわくわくした様子で中学生に注目していました。

指人形であいさつ
●持ってきたプレゼント(折り紙のクマの指人形)を使い、代表の中学生があいさつをする。プレゼントは幼稚園の先生にまとめて渡し、中学生が帰ってから幼児に配る。

ペアの幼児と手をつなぎホールへ移動
●幼稚園の先生が中学生と幼児のペアを決める。ペアで手をつなぎ、ホールへ移動する。

中学生はペアの幼児と一緒に体操に参加し、コミュニケーションを取りながら幼児の身体的な特徴や運動能力について学んでいました。

幼児と一緒に体操
●体操指導の先生の指導のもと、幼児と一緒に体操(ペアでストレッチなどのスキンシップを中心とした活動)に参加する(30分程度)。

お別れのあいさつ
●幼児と握手・ハグをして、お別れのあいさつをする。

お別れのときには幼児が「バイバーイ、また来てね!」と中学生の姿が見えなくなるまで手を振っていました。中学生も園を去りがたい様子で、短時間でも心に残る体験になったようです。

幼稚園を出発
●園児はホールや廊下から中学生を見送る。
●中学生は徒歩で中学校へ戻る。

事例３
『中学生と乳幼児親子の手遊び・踊り』を取り入れた地域の世代間交流拠点でのふれ合い体験

資料提供：◆江戸川区立共育プラザ南篠崎
◆江戸川区立篠崎中学校 渡邉沙織先生

ふれ合い体験のねらい(世代間交流事業としてのねらい)

- 保護者は普段かかわることの少ない中学生との交流を通して、成長していくわが子の将来を見通す機会となる。
- 中学生は赤ちゃんとふれ合うことで、慈しみの心を学ぶとともに、生命の大切さを知る。また、保護者と話すことにより親から受けている愛情について考える機会とする。
- 中学校・地域の方たちとの連携を取り、世代間交流をするとともに、子育て支援を地域で行っていく機会とする。

体験当日の実施概要(クラス毎に実施)

実施時期	7月
時 間 数	1時間45分 (うち、乳幼児親子と直接ふれ合う時間は後半の45分)
実施場所	共育プラザ南篠崎 2階プレイルーム・3階スポーツルーム
人数構成	●中学3年生(1クラス,38名) ●乳幼児親子(首が座っている0歳児～1歳8ヶ月の乳幼児とその保護者,各回35組)
支援体制	●中学校側：家庭科教諭1名＋クラス担任1名＋中学校PTA保護者2～3名 ●共育プラザ側：常駐スタッフ10名＋ボランティア各回10名
活動形式	開始30分は全体・グループで中学生が赤ちゃんとのかかわり方を学習する時間。途中から乳幼児親子が参加し、6つのグループに分かれて交流を行う。

活動のポイント

✔ふれ合い体験自体は総合的な学習の時間の位置づけて行い、家庭科で事前・事後学習を行った。
✔中学生5～7人＋乳幼児親子5～6組構成の6グループに分かれて活動し、各グループに共育プラザのスタッフが付いて中学生の学習をサポートした。

補足事項

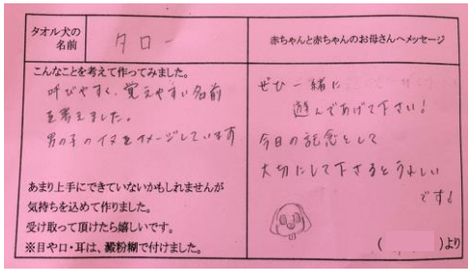
✔参加親子の募集は共育プラザが中心となり、広報紙・館内外の掲示・区のホームページ・SNS等、いくつかの媒体を用いて呼びかけた。
✔中学生は全6クラスあり(うち1クラスは特別支援学級)、ふれ合い体験は日時をずらして全5回実施した。

保育学習全体の授業計画(12時間)

1 幼い頃を振り返ろう、幼児の体の発達
2 タオル犬の製作
3 幼児の体の発達
4 幼児の心の生活と家族、幼児の生活習慣
5 ふれ合い体験直前指導
6 ふれ合い体験
7 幼児の生活と遊び、おもちゃの計画
8 幼児のおもちゃを作ろう
9 幼児のおもちゃを作ろう
10 幼児のおもちゃを作ろう
11 幼児のおもちゃを作ろう
12 幼児のおもちゃを作ろう

乳幼児へのおもちゃのプレゼント『タオル犬』について

安全に配慮しながら、1時間の事前学習でふれ合い体験時に乳幼児へのお土産としてプレゼントする『タオル犬』を製作。



幼児は、中学生からもらったタオル犬を大切に持ち帰りました。乳児はタオル犬のラッピングに使われていたビニールの袋のカサカサと鳴る音も気に入ったようでした。

体験当日の流れ

中学生対象の事前学習
●プレイルームで全体説明のあと、6グループに分かれ、赤ちゃんとのかかわり方(抱っこ・おむつ替えの練習・ふれ合い遊びの練習等)を学習する。

手遊び『さかながはねて』では、赤ちゃんに触れた中学生から「わ!ふわふわ。」「かわいい。」という声があがっていました。

乳幼児親子が合流・手遊び
●3グループずつ2階と3階に分かれ、乳幼児親子が合流する。中学生は自分のグループの親子を部屋の入口まで迎えに行く。
●手遊び『さかながはねて』を全員で行う。

あいさつ・注意事項の説明
●全員であいさつをする。
●進行役の共育プラザスタッフが注意事項を説明。
●共育プラザの代表スタッフが挨拶。

中学生によっては、哺乳瓶やマグでミルクやお茶を飲ませる体験や、おむつ替えの体験をした生徒もいました。

ふれ合いタイム
●グループ内で自己紹介をする。
●親子と中学生が一緒に共育プラザが用意したおもちゃで遊ぶ。
●中学生は保護者に、事前に考えてきた質問をし、答えてもらう。

ダンス・中学生からのプレゼント
●全員で『アイアイ』の音楽に合わせて踊る。
●中学生から乳幼児へ『タオル犬』をプレゼント。

中学生だけで乳幼児の相手をする
●乳幼児の保護者がアンケートを記入している間、すぐそばで中学生が乳幼児の相手をする。

保護者の方は「中学生が、妊婦の大変さについての質問をしてくれて、お腹が大きい大変さだけではなく、マタハラなども辛かったことを知ってもらえたのがよかった」と話していました。

感想発表・あいさつ・退場
●保護者と中学生2名ずつがふれ合い体験の感想を発表。
●中学校教諭の挨拶。
●終わりの手遊び『げんこつ山のたぬきさん』。
●中学生→親子の順で退場。

事例４
『幼児親子とのスイートポテトづくり』を取り入れた地域の交流センターでのふれ合い体験

資料提供：◆日立市立中里中学校 八木澤香里先生
◆日立市中里学区社会福祉協議会「おもちゃライブラリー」

ふれ合い体験のねらい

▸幼児と触れ合ったり、一緒に調理をしたりするなどの直接体験を通して、幼児との関わり方について実感をともなって理解することができる。
▸異世代の人々との関わりを通して、家族や地域の人々と協力して家庭生活を営む必要があることに気付くことができる。

体験当日の実施概要(全1クラス)

実施時期	10月
時 間 数	2時間 (『おもちゃライブラリー(※補足事項参照)』の開催時間に合わせて実施)
実施場所	前半：中里交流センター健康増進室(中学校に隣接する地域交流拠点) 後半：中里交流センター調理室
人数構成	●中学2年生(全7名,女子のみ) ●幼児親子(おもちゃライブラリー参加の乳幼児9名とその保護者)
支援体制	●中学校側：家庭科教員1名 ●サポート機関側：スタッフ3名
活動形式	前半15分は中学校に隣接する交流センター健康増進室の活動に参加。途中調理室に移動し、幼児親子と中学生が一緒にスイートポテトを作る。

保育学習全体の授業計画(18時間)

1 幼い頃を振り返ろう
2 ふれ合い体験の準備
(チャイルド眼鏡製作・折り紙でハロウィン製作・調理計画など)
3 ふれ合い体験Ⅰ（本時）
4 ふれ合い体験の振り返り
5 心身の発達
6 おもちゃ製作①
7 心身の発達
8 おもちゃ製作②
9 生活習慣の習得
10 おもちゃ製作③
ふれ合い体験練習（読み聞かせ）
11 ふれ合い体験Ⅱ（読み聞かせ）
12 幼児の生活と遊び
13 幼児の生活と遊び
14 おもちゃ製作④
15 ふれ合い体験Ⅲ（クリスマス会）
16 お礼の手紙作り
17 子どもにとっての家族
18 家族の立場になって考えよう

活動のポイント

✔調理を行う場合は、事前に幼児のアレルギーについても確認しておく必要がある。
✔調理活動の前に一緒に遊ぶ時間を設け、中学生と幼児親子間の交流を深めた。
✔中学校と交流センターが隣接しているため、おもちゃライブラリーの開催時間に合わせて家庭科の授業時間を設定することで、複数回のふれ合い体験が可能となった。

補足事項

✔おもちゃライブラリーは日立市社会福祉協議会が市内20数箇所の交流センターなどで開催している。就学前の子ども(中里学区の場合は幼稚園入園前の幼児が多い)と保護者が、おもちゃを通して楽しく遊ぶ場で、親同士や地域との交流を広げることが出来るような場。中里学区の場合は毎月第二.四木曜日の10時～12時に開催。
✔調理の材料は教師と生徒が持参した。(おもちゃライブラリーではさつま芋堀りを実施しており、そこで収穫したさつま芋を使ってスイートポテトづくりをする年度もある。)
✔ふれ合い体験は、今回の事例で取り上げた調理活動のほか、おもちゃライブラリーに中学生が参加する形で絵本の読み聞かせやクリスマス会など全3回実施した。

体験当日の流れ

中学生が交流センターへ移動・交流
●中学校と隣接する交流センターで行われている「おもちゃライブラリー」に参加し、用意されているおもちゃで幼児と一緒に遊ぶ(15分)。

調理の前に一緒に遊ぶ時間を設けたことで、中学生と幼児親子がお互いに打ち解けることができ、その後の調理の進行がスムーズでした。

中学生のみ調理室へ移動・準備
●中学生が先に調理室へ移動し、スイートポテトづくりの準備(あらかじめ教師が蒸しておいたサツマイモをつぶし、砂糖・バターを加える)(10分)。

幼児親子が調理室へ移動
●おもちゃライブラリーで待機していた(遊んでいた)幼児親子が調理室に移動、中学生と合流。

はじめての調理室に少し緊張している幼児もいましたが、保護者の方や先ほど遊んだ中学生と一緒だったので、楽しく参加することができました。

スイートポテトづくり
●全員で一緒にスイートポテトを成型する。形を整え、表面に溶き卵を塗り、オーブンで焼き上げる(15分)。

スイートポテト完成・試食
●隣の部屋で待っている親子に完成したスイートポテトを届ける。
●中学生は調理室で試食(15分)。

中学生は幼児がスイートポテトの成型をするのをサポートしました。さまざまな形のかわいいスイートポテトができました。

調理室の片付け
●中学生のみで調理室を片付ける(20分)。

教室へ戻る
●教室へ戻り、ふれ合い体験の振り返り(反省・感想)(25分)。

事例５
『絵本の読み聞かせ』『グループでの遊び』活動を取り入れた中学校でのふれ合い体験

資料提供：◆小金井市立小金井第一中学校　筧敏子先生
◆小金井市立さくら保育園

ふれ合い体験のねらい

▸実際に幼児とふれ合うことにより、幼児の心身の発達や遊びについての理解を深める。
▸幼児とのふれ合い体験を通して、年長者としての関わり方について考える。

体験当日の実施概要（クラス毎に実施）

実施時期	9月～10月
時 間 数	1時間（50分授業）
実施場所	中学校の柔剣道場
人数構成	●中学3年生（1クラス，34名） ●保育園児（年中・年長クラス，20名）
支援体制	●中学校側：家庭科教諭1名＋学習支援ボランティア1名 ●保育園側：保育者4名が引率
活動形式	8つのグループ（班）に分かれ、はじめに各グループで『絵本の読み聞かせ』を行い、その後はグループの中学生が準備した遊びを行う。

保育学習全体の授業計画（10時間）

1 幼児の心身の発達（DVD視聴）
2 幼児の生活，生活習慣，食生活の特徴，調理実習の準備
3 調理実習（わかめうどん，米粉のチーズ蒸しパン）
4 調理実習のまとめ，幼児の遊び，絵本について
5 絵本の分析，読み聞かせ
6 子どもが健やかに育つ環境（新聞記事），期末テストについて
7 夏休み宿題レポートのテーマ分担，ふれ合い体験の説明・計画
8 ふれ合い体験直前確認
9 ふれ合い体験
10 振り返り

活動のポイント

✔ふれ合い体験のはじめに『保育園の先生』から安全上の注意事項を説明してもらう。
✔各グループに『記録係』の中学生がおり、活動中の様子や気がついたことを適宜記録し、事後学習（ふり返り）の時間に記録した内容をグループで共有する（※右の「ふれ合い体験中の記録」を参照）。
✔同じグループ内で複数の遊びを行うことで、同じ幼児のさまざまな姿を知ることができる。

補足事項

✔雨天の場合は保育園児の徒歩での来校が難しく、日を改めてふれ合い体験を実施した。
✔中学生は全4クラスあり、クラスごとにいずれも同じ保育園の幼児と、別々の日にふれ合い体験を実施した。

ふれ合い体験中の記録

○幼児とのふれ合い体験　記録用紙（メモ欄）

◇一緒に遊んだ幼児の年齢・保育園のクラス

◇絵本の読み聞かせをしたときの様子、特徴的なこと

◇遊びをしたときの様子、特徴的なこと

◇保育園の先生の話のメモ

◇保育園の先生方の幼児への関わり方で気がついたこと

◇楽しく関わる工夫がうまくいった点

◇楽しく関わる工夫がうまくできなかった点

体験当日の流れ

中学生が柔剣道場に集合・準備
●各班でふれ合い体験の活動の流れを再確認。

中学生はテープにひらがなで名前を書いた名札を付けています。呼びやすいニックネームを書いている中学生は、すぐに名前を覚えてもらっていました。

幼児が中学校の玄関に到着
●各班の班長が玄関まで幼児を迎えに行く。
●残りの中学生は柔剣道場で準備。

園長先生から、中学生の座る姿勢・立って抱っこすることを禁止（座ってはOK）・手のつなぎ方についての説明がありました。中学生は真剣に聞いていました。

全体のあいさつ・注意事項の説明
●幼児の列と中学生の列で向かい合って座る。
●進行役の中学生の声かけで、お互いに『よろしくおねがいします』のあいさつ。
●保育園の園長先生が、ふれ合い体験の注意事項を説明。

グループに分かれる・絵本の読み聞かせ
●各班に分かれて、中学生が絵本を1冊読み聞かせる。

折り紙、お絵かき、カルタ、風船遊び、だるまさんがころんだ、ボウリング、紙飛行機飛ばし等の遊びをしていました。

グループごとに遊ぶ
●中学生が用意した2種類の遊びで班ごとに遊ぶ。

お別れのあいさつ
●はじめのあいさつと同じように向かい合って並ぶ。
●代表の中学生がお礼のあいさつ。
●進行役の中学生の声かけで、お互いに『ありがとうございました』のあいさつ。
●園長先生の話。

幼児が中学校を出発
●各班の班長が玄関まで幼児を送る。
●残りの中学生は柔剣道場の片づけ。

事例６
中学生が作ったおもちゃで遊ぶ『縁日ごっこ』を取り入れた中学校でのふれ合い体験

資料提供：◆本庄市立児玉中学校　山崎友子先生
◆学校法人桜井学園　幼保連携型認定こども園　児玉桜井幼稚園

ふれ合い体験のねらい

▸幼児を観察したり、直接幼児と遊んだりして、ふれ合う楽しさや喜びを味わう。
▸対象児の個性や気持ちを大切にしたかかわりを通して、幼児理解を深める。
▸生徒一人一人が、自分の幼児期を振り返り、幼児を自分の身近な存在と受け止め、幼児についての学習の重要性に気付くことや、生命の尊さを理解し、周りの人々に感謝の気持ちをもつことができる態度を養う。

体験当日の実施概要（クラス毎に実施）

実施時期	9月または2月
時 間 数	1時間（50分授業）
実施場所	中学校の柔道場
人数構成	●中学3年生（1クラス，約30～35名） ●幼稚園児（年中・年長クラス，約30名）
支援体制	●中学校側：家庭科教諭1名 ●幼稚園側：保育者3～4名が引率
活動形式	中学生は柔道場で8班に分かれて、製作したおもちゃを用意する。 幼児は各班を回って中学生が用意したおもちゃで遊ぶ。

保育学習全体の授業計画（12時間）

1 命の誕生と自分の成長
2 幼児の体の発達
（幼児の体の感覚を体験）
3 幼児の心の発達
4 幼児の生活習慣と家族の役割
5 幼児にふさわしいおやつ作り
（蒸しパン作り）
6 幼児の遊びと発達
（絵本の読み聞かせ体験）
7 遊び道具の役割とおもちゃの計画
8 幼児の喜ぶおもちゃ作り
9 幼児の喜ぶおもちゃ作り
10 ふれ合い体験直前指導
11 ふれ合い体験
12 ふれ合い体験のまとめとふり返り

活動のポイント

✔縁日ごっこを取り入れたふれ合い体験では、幼児が各班を回っておもちゃで遊んでくれるため、中学生はたくさんの異なる幼児とかかわることができる。
✔事前学習では、当日を想定した8班に分かれて準備を進める。

補足事項

✔幼児は園バスを使って中学校に来校した。
✔中学生は全5クラスあり、9月に2クラス、2月に3クラスが、いずれも同じ幼稚園の幼児と、クラスごとに別々の日にふれ合い体験を実施した。

縁日ごっこの例

ケンケンパ

トントンずもう

パズルゲーム

ボール運び

絵当てクイズ

神経衰弱

体験当日の流れ

中学生が柔道場に集合・準備
●班ごとに製作したおもちゃを、所定の場所に準備する。

中学生も幼児もはじめは少しドキドキ。全体であいさつをすると、だんだん楽しみな気持ちが大きくなってきたようです。

幼児が到着はじめの会
●幼児の列と中学生の列で向かい合って並ぶ。
●家庭科係が司会進行。
●学級委員が代表であいさつをした後、全員で『よろしくおねがいします』のあいさつ。
●中学校の先生の話。

おもちゃの説明
●司会がおもちゃの説明をする。
●中学生は班ごとに分かれて、自分たちが作ったおもちゃの準備。

縁日ごっこ（30分程度）
●中学生は遊びに来た幼児をサポート。
●幼児は各班を回っていろいろなおもちゃで遊ぶ。

縁日ごっこでは、中学生がボウリング、輪投げ、ボール入れなどの身体を動かす遊びや、パズル、折り紙、クイズ、絵本などの知的な遊びを用意していました。

お別れの会
●はじめの会と同じように並ぶ。
●学級委員が代表でお礼の言葉を言う。
●中学校の先生の話。
●全員で『ありがとうございました』のあいさつ。
●全員で記念撮影。

幼児が中学校を出発
●中学生は幼児の手をとり、手をつないでバスまで送り届ける。

事例７
『学校探検（クイズ・スタンプラリー）』を取り入れた中学校でのふれ合い体験

資料提供：◆本庄市立本庄東中学校　砂川千津子先生（現　美里町立美里中学校勤務）
◆社会福祉法人若草福祉会　みどり保育園・若草保育園

ふれ合い体験のねらい

▸生徒が幼児とふれあうことにより、生徒の幼児に対する理解や保育の意義、大切さ、そして人間の成長についての認識を深めさせ、生命の尊さを理解し、周りの人々に感謝の気持ちを持つことができる態度を養う。

体験当日の実施概要（2クラス合同）

実施時期	10月～11月
時　間　数	1時間（50分授業）
実施場所	中学校の校内・校庭
人数構成	●中学3年生（2クラス合同，72名） ●保育園児（年中・年長各1クラス，約50名）
支援体制	●中学校側：家庭科教諭1名＋技術科教諭1名 ●保育園側：保育者5名
活動形式	中学生1～2名と幼児1名がペアになって中学校の構内をスタンプラリー形式で回り、各ポイントでクイズに答える。

活動のポイント

✔ペアを決めて行うふれ合い体験は、かかわる相手の幼児が決まっているため、自分から積極的に幼児とかかわることが苦手な中学生にとっても幼児との交流の機会を持ちやすい。
✔2クラス合同でふれ合い体験を実施し、連続する2時間のうち前半の1時間は幼児とのふれ合い体験を実施。後半の1時間はレポートをまとめる時間とした。

補足事項

✔幼児は園バスを使って中学校に来校した。
✔中学生は全6クラスあり、2クラスずつ合同で別々の日にふれ合い体験を実施した。
✔幼児は、2つの保育園の幼児が別々の日に来校し、うち1園は2回ふれ合い体験を実施したため、スタンプラリーのクイズの内容を変更する形で対応した。

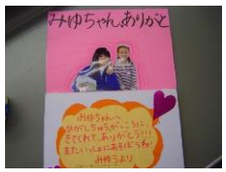
保育学習全体の授業計画（14時間）

1　赤ちゃん人形を抱っこしよう
2　幼児の体の発達
3　幼児の心の発達
4　幼児の生活習慣と家族の役割
5　幼児の遊びと発達
　（保育士さんから話を聞こう）
6　ふれ合い体験の説明
7　ふれ合い体験事前指導
8　ふれ合い体験
9　ふれ合い体験レポート作成
10　レポート発表会
11　幼児にサンクスカードを送ろう
12　幼児のおやつ作りに挑戦（計画）
13　おやつ作り
14　おやつ作り（振り返り）

サンクスカードについて

幼児とのふれ合い体験後、学校探検の時にペアになった幼児にサンクスカードを作成し届けました。中学生は、幼児の顔を思い浮かべながら楽しそうに作成していました。また、カードを受け取った幼児は嬉しそうにカードを見ていました。

中学生が作成したサンクスカード



ペアが決まると、学校探検へ出発です。手をつないでいろいろな話をしながら回っていました。

スタンプラリーのチェックポイントは全部で6カ所（柔道場•音楽室•理科室•校庭の鉄棒•校庭の木など）。柔道場では、保育士さんにスキンシップが図れるような課題（お馬さん、おんぶで柔道場1周など）を出してもらい、クリアしたペアにクイズを出してもらいました。

体験当日の流れ

中学生・幼児が体育館に集合
●中学生と幼児がお互いに向かい合って整列。

はじめの会
●学級委員が司会進行。
●学級委員が代表であいさつをした後、全員であいさつ。
●保育園の園長先生の話。

学校探検の説明・準備
●学校探検のやり方を説明。
●中学生・保育園児とも、各クラス6班に分けておき、くじで担当する班を決める。
●各班で自己紹介をする。
●各班の中で相談して、中学生と幼児のペアを決める。

学校探検（20分程度）
●混雑を避けるため、1クラスは校庭から、もう1クラスは校内から学校探検をスタートする。
●各チェックポイントに掲示されたクイズに答えながら、スタンプラリーのカードを埋めて言葉を完成させる。

おわりの会
●はじめの会と同じ形に整列。
●学級委員が代表であいさつをした後、全員であいさつ。
●保育園の園長先生の話。

幼児が中学校を出発
●中学生は幼児を見送る。

事例８
『サポート団体による事前・事後学習』『中学生が製作したおもちゃで遊ぶ活動』を取り入れた中学校でのふれ合い体験

資料提供：◆浜松市立南陽中学校 外波山真菜先生
◆ふれあいサポートネット「ふわっと」代表 榊原真理様

ふれ合い体験のねらい

- 学校教育目標具現化に向け重点として掲げる『命の教育』『心の耕し』の一層の推進に関わり、あかちゃんとその保護者に直接ふれ合い、話を聴くことで、自他の命、生きていることへの感謝について、深く認識させる場とする。
- 技術・家庭科『家族・家庭生活 幼児の生活と家族』の学びを体験的に深める。
- 地域と協働し、地域の中で活躍する『浜松の未来を支える』人づくりを推進する。

体験当日の実施概要(3クラス合同)

実施時期	5月
時 間 数	4時間(1校時～4校時まで) （うち、乳幼児親子と直接ふれ合う時間は1時間程度）
実施場所	南陽中学校柔剣道場
人数構成	●中学3年生(3クラス,約91名) ●乳幼児親子(3ヶ月～3歳とその保護者,約39組)
支援体制	●中学校側：家庭科教諭1名＋各クラス担任ほか7名 ●サポート機関側：スタッフ12名＋ボランティア14名
活動形式	前半1時間半は中学生のみを対象に、赤ちゃんとのかかわり方を中心に学習・ふれ合い体験の説明を受ける。その後1時間程度ふれ合い体験を実施し、残りの時間で感想文を書くなどのまとめの活動を行う。

保育学習全体の授業計画(20時間)

【中学2年生】
1 乳幼児の体の発達
2 心の発達
3 言葉
4 生活習慣
5 遊び
6 チャイルドビジョン・ふれ合い方
7 おもちゃ
8 おもちゃの製作
9 おもちゃの製作
10 おもちゃの製作
11 おもちゃの製作
【中学3年生】
12 おもちゃ発表会
13 助産師によるいのちの授業
（スタッフによる体験当日の説明）
14 スタッフによる体験当日の事前学習
15 当日準備・ふれ合い体験
16 ふれ合い体験
17 スタッフによる体験当日のまとめ
18 レポート作成
19 レポート作成
20 レポート発表会

活動のポイント

✔1グループが中学生5～6名＋乳幼児親子2組＋ボランティア1名構成の全15グループに分かれて活動し、グループのボランティア・スタッフが中学生と乳幼児親子の交流をサポートした。
✔ふれ合い体験とは別日に、事前学習として『助産師によるいのちの授業』を実施した。
✔ふれ合い体験当日も、乳幼児親子との交流前に団体スタッフによる事前学習と、ふれ合い体験直後にまとめの事後学習を実施した。

補足事項

✔中学生は全6クラスあり、ふれ合い体験の実施日は他学年が校外学習を行う日に合わせて設定、学校行事の一環として第3学年の全員が2日間に分けて3クラスずつふれ合い体験を行った。他学年の校外学習時にふれ合い体験を行うことで、来校する乳幼児親子の駐車スペースを会場に近い所に確保できた。
✔ふれ合い体験の実施時期(中学3年生の5月)に合わせて、中学校2年次から3年次にかけて保育学習を行い、3年次のふれ合い体験当日に中学生が製作したおもちゃを用いた活動ができるように、2年次におもちゃ製作の時間を設けた。

体験当日の流れ

事前学習では、赤ちゃんの事や、お互いが気持ちよく過ごすためのコミュニケーションについて学び、手遊びの練習をしました。

中学生対象の事前学習 会場準備
- ●各クラスでスタッフによる事前学習(オリエンテーション)を受ける。
- ●全員で会場の準備をする。

全体説明・係に分かれての説明
- ●柔剣道場に中学生3クラス全員が集まり、スタッフからふれ合い体験全体の説明・担当する係の説明を受ける。

多くの親子が車で来校するため、係の中学生が駐車場までお迎えに行き、受付係のところへ案内しました。

乳幼児親子の受け入れ
- ●乳幼児親子が来校。
- ●中学生が迎えに行き、受付・会場の柔剣道場へ案内する。

保護者とのコミュニケーションタイム
- ●保護者が持参した育児の記録（母子健康手帳、胎児のエコー写真、育児日記・写真など)を見せてもらう。
- ●育児の話や保護者の想いを聞く。

中学生は保護者に教えてもらいながら、おむつ替えや授乳の体験をしました。また、自分たちが製作したおもちゃを使って一緒に遊びました。

乳幼児のお世話体験
- ●中学生が製作したおもちゃで一緒に遊ぶ。
- ●乳幼児の保護者やスタッフに教えてもらいながら授乳やおむつ替えを体験。
- ●乳幼児の抱っこ体験。

乳幼児親子の見送り
- ●中学生が乳幼児親子を見送る。
- ●中学生は各クラスへ移動。

中学生対象の事後学習
- ●ふれ合い体験の振り返り(これまでの学習の振り返り、スタッフによる絵本の読み聞かせ)
- ●ふれ合い体験の感想文を書く。
- ●交流をした親子へ手紙を書く。

事例９
乳幼児親子との交流に『コミュニケーションカード』を活用した中学校でのふれ合い体験

資料提供：◆ＮＰＯ法人とべ子育て支援団体ぽっかぽか 代表 村上明子様
◆砥部町立砥部中学校 泉美里先生

ふれ合い体験のねらい（子育て支援事業としてのねらい）

▸少子化問題に対するため、若年層を対象に子ども・子育て支援、少子化対策に関わる機運の醸成に取り組む。
▸赤ちゃんふれあい体験では、町内の学校において、学生たちが乳児及びその保護者とのふれあい体験・交流を通じ少子化対策への取り組みの重要性について考えるとともに、結婚から妊娠・出産・育児に至る前向きな気持ちを持つよう支援するとともにこども・子育て支援に積極的に協力していけるように働きかけることを目的とする。

体験当日の実施概要（クラス毎に実施）

実施時期	11月～12月
時 間 数	2時間 （うち、乳幼児親子と直接ふれ合う時間は後半の1時間）
実施場所	中学校の被服室（当日の事前学習）、美術室（ふれ合い体験）
人数構成	●中学2年生（1クラス，37名） ●乳幼児親子（3か月～1歳3か月位の乳幼児とその保護者，約15組）
支援体制	●中学校側：家庭科教諭1名 ●ＮＰＯ側：7～9名（ＮＰＯスタッフ＋町担当課＋子育て支援関係者）
活動形式	前半1時間は中学生のみを対象に、赤ちゃんとのかかわり方を中心に学習する。後半1時間は全体で交流をしたあと、5～6つのグループに分かれて交流を深める。

保育学習全体の授業計画（4時間）

1 自分の幼いころを振り返ろう
2 ＮＰＯによる体験当日の事前授業
3 ふれ合い体験
4 幼児の体の発達

コミュニケーションカード

活動のポイント

✔1グループが中学生7～8名＋乳幼児親子3～4組構成の全5～6グループに分かれて活動し、各グループにそれぞれＮＰＯ側のスタッフが付いて中学生と乳幼児親子の交流をサポートした。
✔中学生と乳幼児の保護者との交流を促すためのツールとして「コミュニケーションカード」（※右上の写真を参照）を各グループに用意した。

補足事項

✔ふれ合い体験の実施者は砥部町（ＮＰＯ法人とべ子育て支援団体ぽっかぽかに業務委託）
✔参加親子の募集はＮＰＯが中心となり、子育て支援施設（とべ子育てつどいの広場ぽっかぽか・児童館）の利用者への声かけや掲示・町の乳幼児健診・乳幼児相談等で募集した。
✔ふれ合い体験は、技術・家庭（家庭分野）の位置づけで行った。
✔中学生は全5クラスあり、ふれ合い体験は日時をずらして全5回実施した（平成30年度）。

中学生は，乳幼児の保護者が持参した母子健康手帳や胎児のエコー写真，思い出の写真などを見せてもらいながら，保護者の子どもへの思いを感じていました。

グループでは赤ちゃんとおもちゃで遊んだり，中学生と乳幼児の保護者がコミュニケーションカードを使いながらお互いに質問に答え合っていました。

体験当日の流れ

中学生対象の事前学習
●全体での学習：赤ちゃんのかかわり方と発達について、おもちゃの紹介。
●グループでの学習：赤ちゃんってどんなイメージ？、今の自分たちにできること。

中学生と乳幼児親子が合流
●美術室でグループごとに待つ乳幼児親子のところへ、中学生が合流。

スキンシップ遊び
●タオルを使った遊び。
・いないいないばあ
・引っぱりっこ　　など

ベビータッチケア
●ベビータッチケア。
（進行役のＮＰＯスタッフがタッチの部位ごとにポイントを伝えながら、中学生が乳幼児に触れる）

グループごとに交流
●自己紹介。
●乳幼児とおもちゃを使って遊ぶ。
●保護者といろいろな話をする。
●赤ちゃんの抱っこ体験。
●妊婦体験（妊婦ジャケット着用）。

アンケート記入・感想発表
●中学生・乳幼児保護者がふれ合い体験の事後アンケートを記入（事前アンケートは体験前日までに記入）。
●中学生2名と乳幼児保護者1名が感想を発表。

感想発表・お別れ
●グループごとに記念撮影。
●グループの親子と握手、お別れ。

事例10
複数回のふれ合い体験を取り入れた保育学習①
ーペアを組んだ幼児との年間を通したふれ合い体験ー

資料提供：◆広島大学附属三原中学校　藤井志保先生
◆就実短期大学　伊藤優先生
◆広島大学附属三原幼稚園

ふれ合い体験のねらい

▸幼児とのふれ合いや家族・家庭，衣生活に関する実践的・体験的な活動を通して、自分の成長や家族・家庭、幼児について関心を深め、幼児や家族に主体的にかかわり、これまでの自分・今の自分・これからの自分を見つめることができるようにする。

保育学習全体の授業計画(18時間＋家庭科以外の時間)
※黄色の箇所は幼児とのふれ合い体験を実施

時期	主な学習内容	体験活動	時数	家庭科以外の時間
4月	なぜ幼児について学ぶのか		1	
	自分の幼い頃を振り返ろう		1	
5月	出会いのふれ合い体験	ペア幼児との出会い(幼稚園訪問)	1	運動会での幼児との合同演技に向けて，踊りの練習・運動会(４～５回の交流)
6月	幼児の心身の発達について学ぼう		6	
7月	幼児の生活と遊びを知ろう	ペア幼児へバンダナのプレゼントを作る	4	
夏休み	幼児へのバンダナ製作		時間外	夏休み
12月	幼児へのバンダナの製作	ペア幼児が家庭科室に来て交流	1	※昼休憩に実施した年度もあり
	幼児の食生活を知ろう	幼児に適したおやつ作り	4	
1月	幼児についての学びをふり返ろう	バンダナの展示会	時間外	昼休憩
		バンダナを幼児にプレゼント	時間外	代表生徒が届ける
3月		ペア幼児と最後の交流(手紙を渡す)	時間外	昼休憩

体験当日の実施概要(2クラス合同)

実施時期	5～3月
時 間 数	計10回のふれ合い体験を実施
実施場所	実施場所はふれ合い体験の内容によって異なり、幼稚園、中学校の家庭科室、校庭等。
人数構成	●8年生(中学2年生2クラス,81名) ●幼稚園児(年中1クラス,30名)
支援体制	●中学校側：家庭科教諭1名 ●幼児側：保育者2名

補足事項

✔中学生は全2クラスあり、ふれ合い体験時は毎回2クラス合同で実施した。

中学生と幼児がペアを組み、年間を通してかかわることの効果

●ふれ合い体験前、中学生はもともと幼児に対して「明るい」「かわいい」といったイメージを持ち、幼児を一括りに捉える傾向が強かったが、ペアを中心に多様な性格の幼児とかかわることで幼児一人ひとりにも個性や性格があることを実感できていた。
●実際に幼児と接することで、多くの生徒が幼児に対して、親しみや愛しさを抱き、それに伴ってより幼児を理解したかかわりに変容していた。
●一方で、幼児とのかかわりの難しさについては、かかわるたびに相手のこともよく分かるようになり、課題も見えてきていた。さらには、その難しさを感じる場面で中学生の多くは「自分」についても見つめることができていた。

(5月)ペア幼児との出会い：幼稚園訪問(1時間)

中学生が隣接する附属幼稚園を訪問し、ペアの幼児を探して声をかけ、お互いに自己紹介や簡単な遊びを通して交流を深める。

活動のポイント
✔事前に教師が年中児1名と中学生2～3名のペア決めをすることで、中学生はふれ合い体験前に幼児の名前を覚えたり、ペア幼児のことをイメージしてふれ合い体験当日を迎えることができる。

(5月～6月)ペア幼児と運動会に向けたダンスの練習(教科時間外,4～5回)

6月の運動会では、園児が踊りやすく、また共にスキンシップを取りながら楽しく踊れるような動きを取り入れたオリジナルの踊りを中学生の実行委員を中心に考えている。中学生は幼稚園の遊戯室でペア幼児に踊りを教えたり、一緒に遊ぶ活動を通して幼児とコミュニケーションをとる。

活動のポイント
✔スキンシップは中学生が普段あまり行わない他者とのかかわり方だが、幼児との信頼関係を築くうえで重要なかかわり方である。一緒に踊る活動を通して自然な形でスキンシップがとれる。

(12月)ペア幼児が家庭科室に来て交流（1時間）

ペアの幼児にプレゼントするため、市販のバンダナにペア幼児をイメージした刺しゅうをする。幼児は中学校に来校し、刺繍をしている様子の一部を見学する。

※幼児の中学校への訪問は年度によって異なり、授業外の昼休憩の時間に手紙の交換を実施した年度もあった。

幼児は中学生が自分へのプレゼントを作っているということを知り、完成を楽しみにしている様子でした。

(1月)製作したバンダナを幼児にプレゼント(時間外)

完成したバンダナを代表の中学生が幼児のところへ届ける。

出会いから2年後の中学校の卒業式の日、幼児がプレゼントしてもらったバンダナを振って中学生を見送る姿がありました。

活動のポイント
✔バンダナ製作は衣生活分野の学習と関連させておこなう。

(3月)ペア幼児と最後の交流：手紙を渡す(時間外)

1年間ペアを組んだ幼児に手紙(メッセージカード)をプレゼントする。

活動のポイント
手紙を書くことで、中学生はこれまでの交流をふり返り、ペア幼児に対する想いや自分の幼児へのかかわり方について改めて考えることができる。

事例11
複数回のふれ合い体験を取り入れた保育学習②
ー同じ保育園での２度のふれ合い体験ー

資料提供：◆本庄市立児玉中学校　山崎友子先生

ふれ合い体験のねらい

▸幼児の遊び道具の製作や幼児と触れ合うなどの活動を通して、幼児に関心をもち、幼児の心身の発達や遊びの意義について理解し、幼児とのかかわり方を工夫できるようにする。

保育学習全体の授業計画(13時間)

1 いのちの誕生と自分の成長
2 幼児の体の発達
3 幼児の心の発達
4 幼児の生活習慣
5 幼児の遊びの意義
6 幼児の喜ぶ遊び道具の計画
7 第1回ふれ合い体験
8 遊び道具の再検討
9 遊び道具の製作
10 遊び道具の製作
11 遊び道具の製作
12 第2回ふれ合い体験
13 ふれ合い体験のふり返り

授業づくりのポイント

✔遊び道具(おもちゃ)の製作に入る前に、第1回のふれ合い体験を実施したことで、中学生は幼児の興味関心や自分たちが事前に計画した遊び道具が幼児に適しているかを再検討してから製作に入ることができた。

✔第2回のふれ合い体験では製作した遊び道具を使って幼児と遊び、製作したものが幼児に合っていたかを確認したり、改善点についてのふり返りをしたりすることができた。

✔2度のふれ合い体験後のふり返りの授業では、他の中学生の製作物や幼児とのかかわり方について知ることができ、かかわり方の工夫についてさらに考える時間が持てた。

事前学習(6時間)

●幼児の心身の発達、生活習慣、遊びの意義について学習する。
●幼児の遊び道具(おもちゃ)作りの計画を立てる。対象年齢と課題(幼児に身につけさせたい力)を決め、作品名・材料・製作手順・完成図を作成する。

第1回ふれ合い体験：保育園訪問(1時間)

●保育園を訪問して実際に幼児とかかわり、観察を通して幼児の様子や、どのような遊び道具で遊んでいるか、園の環境などを知る。

第1回ふれ合い体験後の学習(4時間)

●幼児の遊び、遊び道具、遊びと心身のかかわりについて観察したことを整理する。
●事前学習時に自分たちが計画していた遊び道具について再検討し、実際に製作する。

第2回ふれ合い体験：保育園訪問(1時間)

●中学生が再度保育園を訪問し、製作した遊び道具を用いて幼児と交流をする。

事後学習(ふり返り)(1時間)

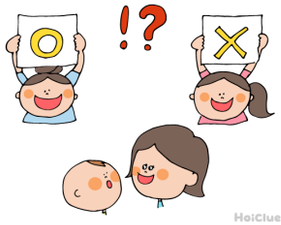
●ふれ合い体験をふり返り、製作した遊び道具や幼児とのかかわりについてワークシートにまとめ、発表し合う。
●保育所や幼児に向けて手紙を書く。

＜ふり返りのワークシートの内容＞
①自己評価(幼児に身につけさせたい力が育つ工夫・幼児が関心を持てる工夫・適切な材料選び、有効に活用、安全性・その他)
②友人の発表を聞いたり意見交換をしたりして気がついたこと
③遊び道具の製作を通しての成果と課題
④対象児との(自分の)かかわり方(話し方・接し方など)について良かったところ
⑤幼児の観察やさまざまな人(保育者や友人など)のかかわり方を参考に、幼児にはどのように接するのが良いのかを考える

ふれ合い体験で中学生と子どもが一緒に遊べる活動のアイディア紹介

▸ふれ合い体験の中で中学生と子どもたちが一緒に楽しみやすい遊びをいくつか紹介します。ここで紹介する遊びの例は、「保育や子育てが広がる“遊び”と“学び”のプラットフォームHoiClue(ほいくる)」様にご提供いただき、中学生と子どもの交流向けに少しアレンジをさせていただいています。ほいくるのWebサイト https://hoiclue.jp/ では、製作遊びや手遊びなど、ここで紹介している以外にも、子どもと楽しめるさまざまな遊びのアイディアについても見ることができます。

遊びのアイディア1
「マルバツクイズ」



【遊び方】
1. 子どもと中学生がペアになる。
2. 真ん中に線を引き、マルエリアとバツエリアに区切る。
3. 保育者がクイズを出す。
4. マルだと思うペアはマルエリアへ、バツだと思うペアはバツエリアへ行く。
5. 保育者が答えを発表し、正解のエリアにいる方の勝ち!

簡単なクイズの例)
・チョコレートは野菜である。マルかバツか?
・朝にするあいさつは「おはようございます」である。マルかバツか?
・寒いとき、首に巻くのは手袋である。マルかバツか?
・(ちょっぴりアレンジして…)わたし(保育者)の、このポケットの中には○○が入っている。マルかバツか?

★ポイント★
・初めは簡単なクイズから出題すると楽しみやすい。
・どっちだと思うか、相談しても楽しい!
・子ども同士、中学生同士でそれぞれペアになったり、ペアにならずに個人で挑戦したりしてもおもしろい!
・チームを作って、チーム対抗にしてもおもしろい。
・正解したペアのみ次のクイズへ挑戦できる、勝ち抜き戦をしても楽しめる。

資料提供元URL https://hoiclue.jp/800004925.html

遊びのアイディア2
「5mおしり走」

遊び方
1. 横に2人並び、おしりをついて体操座り(おやま座り)をする。
2. 「よーいどんっ!」の合図で、座ったままおしりだけをつけて足を上げ、腕を振って前に進む。
※この時、腕をたくさん振っておしりを左右に動かすのがポイント!
ゴールに先についた方が勝ち!

★ポイント★
・子どもの年齢によって、ゴールまでの距離を縮めたり伸ばしたり、調節する。
・広い場所であれば2人でなく、大人数でやってみてもおもしろそう!
・安全面に配慮して、後ろ向きに進んでみても楽しめます。距離をのばしたり、ちょっとしたマットのお山をつくったり、アレンジして楽しんでみよう♪

資料提供元URL https://hoiclue.jp/700140655.html

遊びのアイディア3
「色集めラリー」

【用意するもの】
・色集めカード
・シール
・シールを入れる袋(または箱でもOK)

【遊び方】
1. あらかじめ、戸外の数カ所に色のシールを置いておく。
緑の場所なら緑色のシール、黄色い場所なら黄色いシールを置くようにする。

例)緑のシール…緑の葉っぱの生えた木にぶら下げる。
黄色のシール…黄色の滑り台のそばに置く。 など

2. 子どもと中学生がペアになり、カードに書かれた色を探す。
3. 見つけた色の場所にシールがあったら、シールをカードに貼る。
4. 全部の色がそろったらゴール♪
保育者のところへ行き特別なシールを貼ってもらおう!

★ポイント★
・カードに載せる予定の色が目的地にあるかどうか、下見の時にしっかりと確認しておく。(当日までに間が開く場合は、色が変わる可能性があるものはのぞいておこう…!)
・場所が広めの場合ははぐれないよう、ゲームを始める前にきちんと範囲を伝えておく。
・袋や箱に入れ、ぶら下げたり重石を乗せたりしておくとシールが飛んでいきにくい。
・あちこちに同じ色があってシールを探しづらい場合は、あらかじめどこにシールがあるかヒントを出しておいてもOK!
・戸外だけじゃなく、室内でも楽しめる。

資料提供元URL https://hoiclue.jp/800004927.html

遊びのアイディア4
「フープくぐり」

【使うもの】
・フラフープ

【遊び方】
1. 子ども→中学生→子ども→中学生の順番に手をつないで横一列になる。
2. 端のひとからスタート!
フープをくぐって隣のひとにフープを渡し、隣の人はそのフープをくぐってさらに隣の人に渡す。
※この時、手はつないだまま!
3. 先にゴール側のひとにフープが渡ったチームの勝ち!

★ポイント★
・フープはどこから通そう?頭から?それとも片足から?フープをくぐるのが上手な人をよーく観察すると、コツが掴めそう…!
・フープをくぐり終わった後も気が抜けない!隣のひとがフープをくぐりやすいように協力してあげよう。
・横一列以外だけじゃなく円になっても楽しめる!

資料提供元URL https://hoiclue.jp/800001129.html

遊びのアイディア5
「ジャンケン列車」

【遊び方】
1. 音楽（ピアノで歩きやすい曲を弾くか、デッキで歌を流す。）を流し、その音楽に合わせて室内を自由に歩き回る。

2. 音楽が止まったら、近くにいる友だちとジャンケンをする。

3. ジャンケンに負けた人は、ジャンケンに勝った人の後ろにつき、肩に両手をかける。

4. 1～3を繰り返してどんどん列を長くしていき、最後に列の先頭になった人がチャンピオン！

★ポイント★
・走ったり早歩きをすると列が乱れてしまい危ないので、歩いて行うよう、事前に約束事を呼びかけておく。
・「♪かもつれっしゃシュッシュッシュッ…」という歌に合わせても遊べます。

資料提供元URL https://hoiclue.jp/1030.html

遊びのアイディア6
「まねっこあそび」

【遊び方】
1. みんなで輪になって、手をつなぐ。

2. 保育者が、掛け声をかけるので、中学生と子どもたちは保育者の掛け声を聴いた後にオウム返ししつつ、その掛け声の指示に従って動く。掛け声の種類は、「まーえ」「うしろ」「ジャンプ」「キック」の4つ。

例）保育者:「まーえ!」
子ども＆中学生:「まーえ!」（と言いながら、前に1歩進む。）
保育者:「うしろ!」
子ども＆中学生:「うしろ!」（と言いながら、後ろに1歩下がる。）
保育者:「ジャンプ!」
子ども＆中学生:「ジャンプ!」（と言いながら、その場で1回ジャンプする。）
保育者:「キック!」
子ども＆中学生:「キック!」（と言いながら、その場で片足を上げ真ん中に向かってキックをする。）

3. 「まーえ!」を繰り返して、どんどん輪を小さくしていってもおもしろいし、「うしろ!」を繰り返して手が離れるくらい広がってもおもしろいし、「ジャンプ!」と繰り返して疲れるほど体を動かしても良いし、遊び方と終わり方はいろいろ！

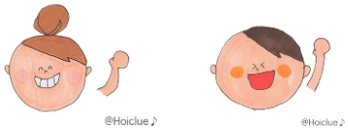
★ポイント★
・他にも、「しゃがむ!」「立ーつ!」などの新しい掛け声を加えていってもおもしろい。
・掛け声のスピードをUPしたり、2つの掛け声を繰り返すなどしても楽しめる。
・遊び方がわかってきたら、子どもたちが順番に掛け声をかけてもおもしろい♪

資料提供元URL https://hoiclue.jp/14104.html

遊びのアイディア7
「もうじゅう狩り」

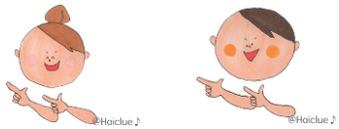
【遊び方】
1. みんなで輪になり、保育者が真ん中に入る。

2. 手をグーにして上にあげながら体を揺らす。
♪ 保育者:「もうじゅう狩りに行こーよ!」
↓↑（繰り返す）
♪ 子ども＆中学生:「もうじゅう狩りに行こーよ!」

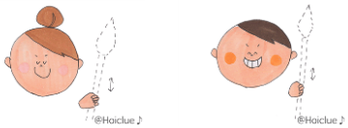


3. 片手を顔の前で降り、顔を左右に振る。
♪保育者:「もうじゅうなんか怖くない」
♪子ども＆中学生:「もうじゅうなんか怖くない」

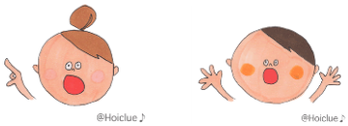
4. 両手で鉄砲を作る。
♪保育者:「だーって鉄砲持ってるもん」
♪子ども＆中学生:「だーって鉄砲持ってるもん」



5. やりを持つ真似をする。
♪保育者:「やりだって持ってるもん」
♪子ども＆中学生:「やりだって持ってるもん」



6. 驚いて手を挙げる。
♪保育者:「あっ!」
♪子ども＆中学生:「あっ!」



7. 保育者は、みんなに聞こえるようにゆっくり動物の名前を言う。「トラ」「ライオン」「ワニ」「チンパンジー」など。

8. 子ども＆中学生は、保育者が言った動物の文字数と同じ数で友だちとグループを作り、座る。

9. 座れないと、もうじゅうに食べられてしまう。これを繰り返す。

★ポイント★
・慣れてきたら、保育者の役を中学生や子どもがやっても楽しめます。

資料提供元URL https://hoiclue.jp/3592.html

絵本の読み聞かせについて

▸絵本の読み聞かせを取り入れたふれ合い体験では、幼児が目を輝かせながら中学生の読み聞かせに集中する姿がよくみられます。また、中学生にとっても、久しぶりに手に取る絵本には幼い頃の思い出が詰まっていたり、大きくなった今、改めて絵本を読むことで絵本の新たな魅力に気がついたりする様子もみられます。ここでは絵本の読み聞かせについて、絵本の選び方や読み聞かせのコツを、元調布市立図書館児童担当司書の黒沢克朗先生に教えていただきました。

Q. どんな絵本を選んだら良いですか？

A.

①絵が語っている

文字を追わなくても、絵だけをみてストーリーが伝わる絵本は良い絵本です。絵が語るストーリーは、絵本の最後のページの裏（裏表紙）まで続いているものもあります。

②声に出して読みやすい文章

読み聞かせる絵本を決めるときは、ぜひ文章を声に出して読んでみてください。リズムがあり、簡潔な言葉で表現されている絵本は、聞き手の子どもたちが物語に集中しやすいです。

③ストーリーに魅力がある

絵本の内容は、読み終わった後に子どもたちが喜びを感じたり、前向きな気持ちを持てるようなものが良いですね。ストーリーの起承転結がはっきりしているものや、結末が子どもたちにとって納得できるようなものが良いです。繰り返し出てくる言葉が面白い絵本も読み聞かせに向いています。

④絵と文が一致している

読み聞かせをするときは、読み手が話している内容と、子どもたちに見せている絵の内容が一致している絵本を選びましょう。ときどき、物語は次のシーンの話になっているのに、絵がいつまでも変わらない絵本があります。特に、読み聞かせをする場合には、絵と文が合っている絵本を選びましょう。

⑤対象年齢が合っている

どんなに内容が素敵な絵本でも、相手の子どもたちの年齢によっては、まだ内容を理解することが難しい場合もあります。絵本によっては、対象年齢のめやすが書かれているものもあります。
P.46～48にまとめた『年齢別の読み聞かせにおすすめの絵本』も参考にしてください。

⑥季節感を大切に

季節の行事や食べ物をテーマにしたものなど、季節の魅力が詰まった絵本がたくさんあります。絵本の中の話が現実の世界とつながることで、子どもたちは絵本と自分の生活の間に共通点を見つけたり、新しい発見をしたり、日常がより豊かになっていきます。

⑦大勢の子どもを対象に読む場合は、見えやすさにも気を配る

後ろの方にいる子どもたちにも絵が見えやすいように、絵がぼやけているものや小さすぎるものは避けましょう。

実際に絵本を手に取って読んでみて、自分が読み聞かせたいと思う本、子どもに出会ってほしいと思う本を選んでくださいね。
丁寧に読まれた絵本のメッセージはきっと、子どもたちにも伝わると思います。

Q. 読み聞かせのコツを教えてください！

A.

①あらかじめ練習をしておく

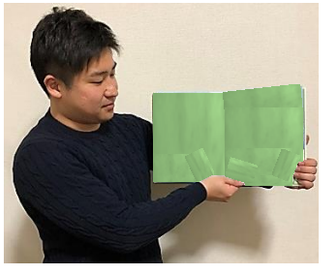
ひらがなだけで書かれた絵本は、意外と読むのが難しいです。物語の流れにのってスムーズに読み進められるように、事前に読む練習をしましょう。絵本を読んでいる時に、子どもたちのほうをみて目線を合わせるなど表情を観察できると、子どもたちの反応が分かって読み聞かせがより楽しくなります。

②読み聞かせのための雰囲気づくり

子どもたちが読み聞かせに集中できるように、可能であれば読み手の背景はシンプルな壁や、子どもの目を引くようなおもちゃを布で覆うなどするとよいです。絵本を読み始める前に、本の内容と関係する声かけをするのも、子どもたちの興味を引くうえで効果的です。

③ゆっくりと心をこめて、ごく自然に読む

絵本に込められたメッセージが伝わるように、心をこめてゆっくり読みましょう。小さい子に対して読み聞かせをする場合は、物の名前が出てきたときにその絵を指さしてあげると理解しやすい場合があります。



④絵本の持ち方・ページのめくり方

子どもと対面で読み聞かせをするときは、右の写真のように、片方の手で絵本の中心部分を開いて持ち、もう片方の手で絵本の端を支えて持つと、本が安定してページがめくりやすいです。読み手は本の上からではなく横から読むと、子どもたちもみやすいです。

⑤絵本の位置は子どもたちの目線よりも少し上

複数人に対して読み聞かせるときは、皆が見えるようになるべく絵本に近づいて座ってもらいましょう。子どもたちは体育座りなど、床に足がつく座り方が良いですね。話し手は、絵本が子どもたちの目線の少し上になるように、椅子に座ったり、立ち膝の姿勢で読むと子どもたちが見やすいと思います。

⑥1回の読み聞かせの長さ

年少くらいまでは長くても7～8分、年中～年長になると、10分くらい読み聞かせに集中してくれるようになります。

⑦人数別の読み聞かせ時の配置例

【1対1や1対2など、個別に読み聞かせをする場合】

- 中学生の膝に子どもを座らせて絵本を読む
- 隣に並んで座り絵本を読む

【複数の子どもたちに対して読み聞かせをする場合】

- 子どもたちと向かい合って絵本を読む
- 後ろにいる子どもたちにも絵がよく見えるように、子どもの座る位置、読み手の位置を工夫する
- 遠目でもわかりやすい絵の本を選ぶ
- 後ろにいる子どもにも聞こえる声で話す

絵本の読み聞かせ Q&A

Q 読み聞かせの時は、声色を使った方が良いですか？

A どちらでも良いです。声色を使える人は使えば良いし、使わなくても良いです。それよりも、物語の流れにのってスムーズに読み進めることの方が大切です。

Q 作者名や出版社名は声に出して読んだ方が良いですか？

A これも、どちらでも良いです。ただ、子どもの立場に立って考えてみると、その絵本を誰が書いたのかということはまだあまり興味がないことだと思います。

Q 読み聞かせている時に、途中で子どもが話しかけてきたときは、どのように反応すれば良いですか？

A 読み聞かせの途中で話しかけてきてくれた子には、目を合わせてにっこりと返してあげると良いと思います。大体読み聞かせを始めてから1分くらい経つと、集中して続きを聞いてくれるようになることが多いです。大人数を相手に読み聞かせをする場合は、話の途中で個別に返事をしてしまうと物語が途中で止まってしまうので、全部読み終わってから返事をしてあげると良いですね。家庭などで個別に読み聞かせをする場合は、その都度返事をしてあげるのも良いと思います。

Q 見開きのページが2つの場面に分かれている絵本があります。そのまま開いて見せると主人公が左右の両方のページに出てきてしまうのですが、どのように読み進めれば良いですか？

A 片面のページだけが見えるように、折り返せる絵本であれば反対に折り返し、片面を隠して読み進める方法があります。

Q 絵本を読み終わったあとに、子どもに感想を聞いた方が良いですか？

A 絵本を読み終えたあとに、あえてこちらから子どもたちに絵本の感想を求めることはしないほうが良いと思います。絵本の読み聞かせを通して、それぞれの子どもたちの中で感じていることがあると思います。こちらから余分なことを言ってしまうと、子どもたちが絵本のことから脱線して、違う世界に行ってしまうかもしれません。

「ブックスタート(Bookstart)」とは？

ブックスタートは、1992年にイギリスで始まりました。絵本は、赤ちゃんに優しく語りかけいっしょに過ごす時間を、ごく自然に作り出します。赤ちゃんにとって絵本は、「読む（read books）」ものではなく「分かち合う・共にする（share books）」ものなのです。そのきっかけを、すべての赤ちゃんのもとへ届けようと、日本でも2001年から活動が始まりました。

現在はブックスタート事業を行う自治体で0歳児集団健診などの機会に、「赤ちゃん、すくすく幸せに育ってね」「地域みんなで子育てを応援していますよ」という気持ちを添えて、赤ちゃんと保護者に絵本を開く時間の楽しさをその場で体験してもらい、ブックスタート・パックを手渡しています。※パックの内容は自治体によって異なります。
(参考：NPOブックスタートホームページ http://www.bookstart.or.jp/about/)

年齢別の読み聞かせにおすすめの絵本

（『このほんよんで！第2版』（調布市立図書館，2010）をもとに作成）

1・2歳向きの絵本

▸2歳ごろになると、ストーリー性のある話を聞けるようになります。幼い子どもは視力がまだ弱いので、この年齢の絵本は色がはっきりしていたり、絵の縁取りが太く描かれているものも多いです。

1.『いちご』　平山和子作　福音館書店
2.『いぬ』　ジョン・バーニンガム作　谷川俊太郎訳　冨山房
3.『おおきなかぶ』　A.トルストイ再話　佐藤忠良画　内田莉莎子訳　福音館書店
4.『おつきさまこんばんは』　林明子作　福音館書店
5.『おにぎり』　平山英三文　平山和子絵　福音館書店
6.『おやすみなさいコッコさん』　片山健作・絵　福音館書店
7.『かささしてあげるね』　はせがわせつこ文　にしまきかやこ絵　福音館書店
8.『がたんごとんがたんごとん』　安西水丸作　福音館書店
9.『かばくん』　岸田衿子作　中谷千代子画　福音館書店
10.『きつねとねずみ』　ビアンキ作　山田三郎絵　内田莉莎子訳　福音館書店
11.『きんぎょがにげた』　五味太郎作　福音館書店
12.『くだもの』　平山和子作　福音館書店
13.『くまのテディちゃん』　グレタ・ヤヌス作　ロジャー・デュボアザン絵　湯沢朱実訳　こぐま社
14.『ころころころ』　元永定正作　福音館書店
15.『ぞうくんのさんぽ』　なかのひろたか作・絵　なかのまさたかレタリング　福音館書店
16.『たまごのあかちゃん』　神沢利子文　柳生弦一郎絵　福音館書店
17.『たんたんぼうや』　かんざわとしこ文　やぎゅうけんいちろう絵　福音館書店
18.『ちいさなうさこちゃん』　ディック・ブルーナ文・絵　石井桃子訳　福音館書店
19.『ちいさなねこ』　石井桃子作　横内襄絵　福音館書店
20.『てんてんてん』　わかやましずこ作　福音館書店
21.『どうすればいいのかな？』　渡辺茂男文　大友康夫絵　福音館書店
22.『とらたとまるた』　なかがわりえこ文　なかがわそうや絵　福音館書店
23.『はねはねはねちゃん』　なかがわりえこ文　やまわきゆりこ絵　福音館書店
24.『ぼくのくれよん』　長新太おはなし・絵　講談社

3・4歳向きの絵本

▸お話に出てきたことを、すぐに実際の生活や遊びに取り入れて追体験したり、繰り返しや擬音に反応したりする時期です。空想と現実が同居している時期なので、想像力を伸ばし、楽しみと発見のある絵本がおすすめです。

1.『あおくんときいろちゃん』　レオ・レオーニ作　藤田圭雄訳　至光社
2.『あかいかさ』　ロバート・ブライト作　しみずまさこ訳　ほるぷ出版
3.『うずらちゃんのかくれんぼ』　きもとももこ作　福音館書店
4.『おおかみと七ひきのこやぎ』　グリム童話　フェリクス・ホフマン絵　せたていじ訳　福音館書店
5.『おおきなおおきなおいも』　赤羽末吉作・絵　福音館書店
6.『おふろだいすき』　松岡享子作　林明子絵　福音館書店
7.『かいじゅうたちのいるところ』　モーリス・センダック作　じんぐうてるお訳　冨山房
8.『ガンピーさんのふなあそび』　ジョン・バーニンガム作　みつよしなつや訳　ほるぷ出版
9.『きかんしゃやえもん』　阿川弘之文　岡部冬彦絵　岩波書店
10.『くまのコールテンくん』　ドン=フリーマン作　まつおかきょうこ訳　偕成社
11.『ぐりとぐら』　中川李枝子作　大村百合子絵　福音館書店
12.『ぐるんぱのようちえん』　西内ミナミ作　堀内誠一絵　福音館書店
13.『だるまちゃんとてんぐちゃん』　加古里子作・絵　福音館書店
14.『てぶくろ』　ウクライナ民話　エウゲーニー・M.ラチョフ絵　うちだりさこ訳　福音館書店
15.『とんとんとめてくださいな』　こいでたん文　こいでやすこ絵　福音館書店
16.『ねずみくんのチョッキ』　なかえよしを作　上野紀子絵　ポプラ社
17.『のろまなローラー』　小出正吾作　山本忠敬絵　福音館書店
18.『はじめてのおつかい』　筒井頼子作　林明子絵　福音館書店
19.『はらぺこあおむし』　エリック=カール作　もりひさし訳　偕成社
20.『はろるどとむらさきのくれよん』　クロケット・ジョンソン著　岸田衿子訳　文化出版局
21.『まりーちゃんとひつじ』　フランソワーズ文・絵　与田準一訳　岩波書店
22.『もりのなか』　マリー・ホール・エッツ文　まさきるりこ訳　福音館書店
23.『やさいのおなか』　きうちかつ作・絵　福音館書店
24.『わたしのワンピース』　にしまきかやこ文・絵　こぐま社

5・6歳向きの絵本

▸5・6歳くらいになると、少し内容の難しいお話も理解できるようになってきます。昔話を一緒に楽しむのも良いでしょう。言葉遊びや詩のように、耳から響いてくる言葉や音の感覚を楽しむことも大好きです。

1.『あくたれラルフ』　ジャック・ガントス作　ニコール・ルーベル絵　いしいももこ訳　童話館
2.『アンガスとあひる』　マージョリー・フラック作・絵　瀬田貞二訳　福音館書店
3.『いそがしいよる』　さとうわきこ作・絵　福音館書店
4.『うらしまたろう』　時田史郎再話　秋野不矩画　福音館書店
5.『おちゃのじかんにきたとら』　ジュディス・カー作　晴海耕平訳　童話館出版
6.『おばけリンゴ』　ヤーノシュ作　やがわすみこ訳　福音館書店
7.『かにむかし』　木下順二文　清水崑絵　岩波書店
8.『くいしんぼうのはなこさん』　いしいももこ文　なかたにちよこ絵　福音館書店
9.『こねこのぴっち』　ハンス・フィッシャー文・絵　石井桃子訳　岩波書店
10.『サリーとライオン』　クレア・ターレー・ニューベリー作　さくまゆみこ訳　光村教育図書
11.『11ぴきのねこ』　馬場のぼる著　こぐま社
12.『だってだってのおばあさん』　佐野洋子作・絵　フレーベル館
13.『つきのぼうや』　イブ・スパング・オルセン作・絵　やまのうちきよこ訳　福音館書店
14.『どうながのプレッツェル』　マーグレット・レイ文　H.A.レイ絵　わたなべしげお訳　福音館書店
15.『ねずみとおうさま』　コロマ神父文　土方重巳絵　石井桃子訳　岩波書店
16.『ははははのはなし』　加古里子文・絵　福音館書店
17.『ふしぎなたけのこ』　松野正子作　瀬川康男絵　福音館書店
18.『ブレーメンのおんがくたい』　グリム童話　ハンス・フィッシャー絵　せたていじ訳　福音館書店
19.『ぼく、お月さまとはなしたよ』　フランク・アッシュ文・絵　山口文生訳　評論社
20.『ぼく、ひとりでいけるよ』　ムーア作　フィアメンギ絵　じんぐうてるお訳　偕成社
21.『まあちゃんのながいかみ』　たかどのほうこ作　福音館書店
22.『まよなかのだいどころ』　モーリス・センダック作　じんぐうてるお訳　冨山房
23.『ものぐさトミー』　ペーン・デュボア文・絵　松岡享子訳　岩波書店
24.『ラチとらいおん』　マレーク・ベロニカ文・絵　とくながやすもと訳　福音館書店

学習指導要領等によるふれ合い体験の位置づけ

▸中学校技術・家庭(家庭分野)の学習指導要領解説(平成29年告示)では、ふれ合い体験に関する内容が示されています。また、乳幼児側の保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説の中でも、中学生等の異年齢との交流について書かれています。

●中学校 技術・家庭(家庭分野) 平成29年告示 学習指導要領解説

【内容】
A家族・家庭生活－(2)幼児の生活と家族
ア 次のような知識を身に付けること。
(ア) 幼児の発達と生活の特徴が分かり，子供が育つ環境としての家族の役割について理解すること。
(イ) 幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解すること。
イ 幼児とのよりよい関わり方について考え，工夫すること。

【内容の取扱い】
ウ (2)については，幼稚園，保育所，認定こども園などの幼児の観察や幼児との触れ合いができるよう留意すること。

▸平成29年告示の学習指導要領では、小学校の家庭科でもふれ合い体験に関連する記述がみられます。また、高校の家庭基礎および家庭総合でも、ふれ合い体験が位置付けられています。

●小学校 家庭 平成29年告示 学習指導要領解説

【内容】
A家族・家庭生活－(3)家族や地域の人々との関わり
イ 家族や地域の人々とのよりよい関わりについて考え，工夫すること。

【内容の取扱い】
ウ (3)については、幼児又は低学年の児童や高齢者など異なる世代の人々との関わりについても扱うこと。

…指導に当たっては家族との触れ合いや団らんについては，児童の家庭の状況に応じた方法で課題を解決することができるよう配慮する。また，地域の人々との関わりについては，身近な地域の活動や行事等を取り上げ，具体的に考えられるようにする。その際，総合的な学習の時間や特別活動など他教科等における交流活動等の学習と関連させて，幼児又は低学年の児童や高齢者など異なる世代の人々と関わることができるよう配慮する。

●高等学校 家庭基礎 平成30年告示 学習指導要領解説

【内容】
A 人の一生と家族・家庭及び福祉－(3) 子供の生活と保育
ア 乳幼児期の心身の発達と生活，親の役割と保育，子供を取り巻く社会環境，子育て支援について理解するとともに，乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けること。
イ 子供を生み育てることの意義について考えるとともに，子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について考察すること。

【内容を取扱うに当たっての配慮事項】
ウ 内容のAの(3)及び(4)については，学校や地域の実態等に応じて，学校家庭クラブ活動などとの関連を図り，乳幼児や高齢者との触れ合いや交流などの実践的な活動を取り入れるよう努めること。

保育所保育指針解説・幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説におけるふれ合い体験に関連する内容(一部抜粋)

・保育所保育指針解説(2018)－第2章－3－(2)－イ－(ウ)内容の取扱い⑥
・幼稚園教育要領解説(2018)－第2章－第2節－2－内容の取扱い(6)
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(2018)－第2章－第4節－2－(2)－内容の取扱い(6)

…高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人と触れ合い，自分の感情や意志を表現しながら共に楽しみ，共感し合う体験を通して，これらの人々などに親しみをもち，人と関わることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにすること。また，生活を通して親や祖父母などの家族の愛情に気付き，家族を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。

・幼稚園教育要領解説(2018)－第1章－第6節－3－学校間の交流や障害のある幼児との活動を共にする機会

…地域や幼稚園の実態等により，幼稚園間に加え，保育所，幼保連携型認定こども園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校などとの間の連携や交流を図るものとする。特に，幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続のため，幼稚園の幼児と小学校の児童との交流の機会を積極的に設けるようにするものとする。また，障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を設け，共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むよう努めるものとする。

・保育所保育指針解説(2018)－第2章－4－(3)家庭及び地域社会との連携

…子どもの生活の連続性を踏まえ，家庭及び地域社会と連携して保育が展開されるよう配慮すること。その際，家庭や地域の機関及び団体の協力を得て，地域の自然，高齢者や異年齢の子ども等を含む人材，行事，施設等の地域の資源を積極的に活用し，豊かな生活体験をはじめ保育内容の充実が図られるよう配慮すること。

・幼稚園教育要領解説(2018)－第1章－第6節－2－家庭や地域社会との連携

…幼児の生活は，家庭を基盤として地域社会を通じて次第に広がりをもつものであることに留意し，家庭との連携を十分に図るなど，幼稚園における生活が家庭や地域社会と連続性を保ちつつ展開されるようにするものとする。その際，地域の自然，高齢者や異年齢の子供などを含む人材，行事や公共施設などの地域の資源を積極的に活用し，幼児が豊かな生活体験を得られるように工夫するものとする。

・保育所保育指針解説(2018)－第4章－3－(2)ア地域の関係機関等との連携

…保育所が地域に開かれた子育て支援に関する活動をすることは，地域におけるより広い年代の子どもの健全育成にも有効である。小学校，中学校，高等学校が実施する乳幼児とのふれあい交流や保育体験に保育所が協力するなど，次世代育成支援の観点から，将来に向けて地域の子育て力の向上につながるような支援を展開していくことが求められている。

・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(2018)－第4章－第4節－2－地域における関係機関等との連携

…子育ての支援は、乳幼児とその保護者ばかりでなく，地域の子どもの健全育成のためにも有効である。小学校・中学校や高等学校が実施する乳幼児との触れ合いや交流に幼保連携型認定こども園が協力するなど，次世代育成支援の観点から，将来に向けて地域の子育て力の向上につながるような支援を展開していくことが求められている。
また、幼保連携型認定こども園においては，乳幼児，小学生，中学生，高校生，大学生，そして地域社会を支える様々な職業に携わる人々や高齢者を含む多様な年齢層を視野に入れ，世代間の交流を図りながら，子育ての知識・技術や，子育て文化あるいは地域の伝統文化を伝え合うなど，人と人との緩やかなつながりを大切にしていくことが望まれる。

研究協力者（50音順・所属は平成30年度時点のもの）

泉　　美里先生（砥部町立砥部中学校）
伊藤　　優先生（就実短期大学）
筧　　敏子先生（小金井市立小金井第一中学校）
金子　京子先生（さいたま市立初任者指導教員）
黒沢　克朗先生（元調布市立図書館）
齋藤美重子先生（川村学園女子大学）
砂川千津子先生（美里町立美里中学校）
外波山真菜先生（浜松市立南陽中学校）
藤井　志保先生（広島大学附属三原中学校）
牧野千恵子先生（都立小石川中等教育学校）
八木澤香里先生（日立市立中里中学校）
山崎　友子先生（本庄市立児玉中学校）
渡邉　沙織先生（江戸川区立篠崎中学校）

研究協力機関(50音順・敬称略)

江戸川区立共育プラザ南篠崎
NPOブックスタート
NPO法人とべ子育て支援団体ぽっかぽか
学校法人桜井学園幼保連携型認定こども園児玉桜井幼稚園
学校法人双恵学園そうけい幼稚園
学校法人東洋大学京北幼稚園
小金井市立さくら保育園
こども法人キッズカラー（HoiClue）
社会福祉法人若草福祉会みどり保育園・若草保育園
日立市中里学区社会福祉協議会「おもちゃライブラリー」
広島大学附属三原幼稚園
ふれあいサポートネット「ふわっと」

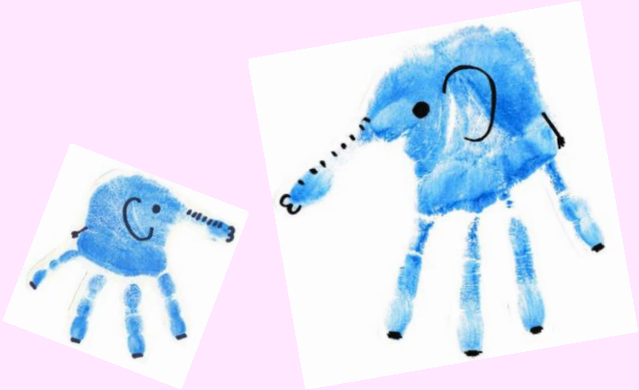
引用文献

・岡野雅子,伊藤葉子,倉持清美,金田利子(2009)『家庭科の幼児とのふれ合い体験学習ガイドブック』
・調布市立図書館(2010)『このほんよんで！第2版』

上記のほか、インタビュー調査やアンケート調査にご協力いただいた中学校の先生方、保育所・幼稚園の教職員の皆さま、乳幼児の保護者の皆さま、本冊子にかかわっていただいたすべての皆さまに心より感謝申し上げます。
(本冊子は、平成30年度 JSPS 科研費 JP17J08852 の助成を受けて作成したものです。)

<編著>
叶内　茜(かのうち　あかね)　東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科
日本学術振興会特別研究員DC（平成30年度）
（平成31年度より 川村学園女子大学生活創造学部　講師）

<監修>
倉持清美(くらもち　きよみ)　東京学芸大学教育学部　教授



家庭科保育学習　中学生と乳幼児のふれ合い体験事例集

発行日　2019年3月20日　初版
　　2019年8月30日　第2版

編　著　叶内　茜
監　修　倉持清美

カバーイラスト　イトウハジメ
印刷・製本　　有限会社サンプロセス

冊子に関するお問い合わせ・連絡先
〒270-1138
千葉県我孫子市下ヶ戸1133
川村学園女子大学　生活創造学部　生活文化学科　叶内研究室

電話：0471-83-6831
E-mail：a.kanouchi@kgwu.ac.jp